

文部科学省委託事業

令和 6 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
(専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証)

電気通信工事業界のための
高等学校及び専門学校連携による
人材育成モデル構築事業

成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社東京リーガルマインドが実施した令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

令和 7 年 3 月

株式会社 東京リーガルマインド

内容

第1章 事業の概要	1
第1節 事業の趣旨・目的等について	1
第1項 事業の趣旨・目的	1
第2項 学習ターゲット、目指すべき人材像	1
第2章 事業の実施	2
第1節 実施体制	2
第1項 構成機関	2
第2項 事業の実施体制	3
第3項 各機関の役割・協力事項について	4
第2節 令和6年度の実施内容	6
第1項 実施内容の全体像	6
第2項 事業推進体制の整備	8
第3項 意識調査アンケートの実施	9
第4項 教育コンテンツの開発と実証講座の実	19
第5項 業界紹介イベントの開催	38
第3節 事業実施に伴うアウトプット(成果物)	46
第1項 年度別(令和3～8年度)アウトプット一覧	46
第2項 令和6年度アウトプット<教材開発/実証講座>	47
第3項 事業実施によって達成する成果及び測定指標	49
第3章 最終年度までの具体的な取組	51
第1節 計画の全体像	51
第2節 本事業終了後の成果の活用方針・手法	54

第 1 章 事業の概要

第 1 節 事業の趣旨・目的等について

第 1 項 事業の趣旨・目的

2021年、政府は、「新しい資本主義」の実現に向けて、その重要な柱として、地方でのデジタルの実装を進め活力ある地域づくりを目指す「デジタル田園都市国家構想」を掲げた。この構想実現のために、総務省は「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」を作り、そのなかで 5G も不可欠なデジタル基盤の一つに挙げられている。

5G ネットワーク整備に向けても、電気通信工事人材の育成は急務である。

以上のような背景から、情報系専門学校と工業高校等の連携により、それぞれの新卒人材を電気通信工事業界に輩出すべく業界企業とのコンソーシアムを編成することで産業界のニーズに見合った人材育成のための教育プログラムの開発、民間資格の創出、新卒採用及び関連教育のプラットフォームの構築など、高等学校入学から、専門学校進学、就職後のキャリアパスまでを明確にし、入職後の離職問題に対するフォローアップまでも含めた人材育成モデル事業を実施する。

第 2 項 学習ターゲット、目指すべき人材像

○高校及び専門学校で共有する目標・人材像・ビジョン

業界のニーズに見合った高・専一貫の教育プログラムを開発し、業界に対する就労モチベーションを高めるとともに、専門学校進学後の学びとの整合性の取れた教育を連携し、に産業界における電気通信工事人材の育成に寄与する教育のアウトカムを目指す。

○高校卒業段階までに目指す人材像・ビジョン

高校卒業段階までに、業界への興味や理解を促進し、社会に出る前に IT を含めた基礎教育とエントリーレベルの専門教育によって入職者の増加と職業定着を目指す。また、専門学校に進学した場合の情報系科目との有効な接続を可能にする「情報」の知識・スキル習得を目標とする。

○専門学校卒業段階までに目指す人材像・ビジョン

専門学校卒業段階までに、ドキュメンテーション能力、プロジェクトマネジメント能力の基本と実務に有効な資格(工事担任者、陸上特殊無線技士)取得を想定した、電気通信工事業界における高度人材(作業責任者候補)をイメージした人材像を目標とする。特に工業高校卒業者は IT パスポート取得レベルの幅広い IT に関する基礎知識、CCNA 取得レベルの通信ネットワーク人材を目標とする。

第2章 事業の実施

第1節 実施体制

本事業では、令和6年度については、以下のような構成機関により実施委員会、調査部会、開発・実証部会を構成し、事業を推進した。

第1項 構成機関

(1)高等学校

名称		役割等	都道府県名
1	埼玉県立川口工業高等学校・情報通信科	調査・開発協力・評価	埼玉県
2	埼玉県立三郷工業技術高等学校・情報技術科	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	埼玉県立大宮工業高等学校・電気科	調査・開発協力・評価	埼玉県
4	学校法人山口松陰学園・通信制	調査・開発協力・評価	山口県 神奈川県 他
5	ヒューマンキャンパス高等学校・通信制	調査・開発協力・評価	埼玉県 福岡県 他

(2)行政機関

名称		役割等	都道府県名
1	埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課	開発協力・評価	埼玉県

(3)専門学校

名称		役割等	都道府県名
1	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
2	学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ 麻生情報ビジネス専門学校	調査・開発協力・評価	福岡県

(4)企業

名称		役割等	都道府県名
1	JESCO エキスパートエージェント株式会社	調査・開発協力・評価	東京都
2	西武建設株式会社	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	株式会社ミライト・モバイル・イースト	調査・開発協力・評価	東京都
4	株式会社タカデン	調査・開発協力・評価	東京都
5	株式会社リガーレ	調査・開発協力・評価	埼玉県

6	株式会社町田電話工業	調査・開発協力・評価	東京都
7	株式会社井上通信	調査・開発協力・評価	東京都
8	株式会社大電テクニカ	調査・開発協力・評価	千葉県

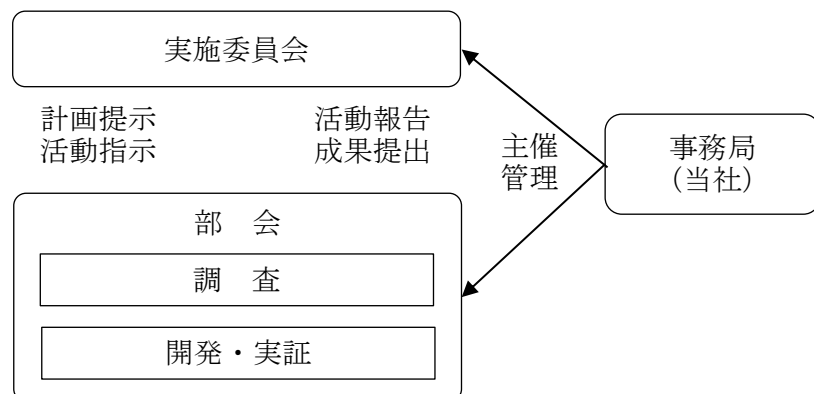
(5)コーディネーター

	名称	役割等	都道府県名
1	株式会社東京リーガルマインド	事業統括	東京都

第 2 項 事業の実施体制

本事業では、実施体制として「実施委員会」「調査部会」「開発・実証部会」の 3 組織を設置した。各組織の概要は以下の通りである。

なお、株式会社東京リーガルマインドは各組織の会議主催者として座長を務めると共に、事務連絡・経費管理・請負業者手配等の各種事務作業を担当した。



○ 実施委員会

構成員：教育機関、行政機関、業界企業・団体、学識者

役割：事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、
活動内容の承認・評価、活動成果の評価

○ 調査部会

構成員：業界企業・団体、教育機関

役割：調査企画、調査対象検討、調査票作成、集計結果分析、
調査報告書作成

○ 開発・実証部会

構成員：教育機関、業界企業・団体、行政機関

役割：カリキュラム設計、プログラム設計、教材設計、開発教材評価・修正、

開発報告書作成、実証講座企画・設計、実施結果分析、 実証講座実施報告書作成 高・専一貫のプログラムは、下記の高等学校と専門学校が中心となり開発する ●プログラム開発校	
高等学校	専門学校
埼玉県立川口工業高等学校 埼玉県立三郷工業技術高等学校 埼玉県立大宮工業高等学校	学校法人中央情報学園中央情報専門学校
学校法人山口松陰学園松陰高等学校 学校法人佐藤学園ヒューマンキャンパス高等学校	学校法人麻生塾麻生情報ビジネス専門学校

第3項 各機関の役割・協力事項について

○高等学校 埼玉県立川口工業高等学校 埼玉県立三郷工業技術高等学校 埼玉県立大宮工業高等学校 学校法人山口松陰学園松陰高等学校 学校法人佐藤学園ヒューマンキャンパス高等学校 ・産業界のニーズを反映したエントリーレベルカリキュラム開発 ・専門学校との教育コンテンツ連携（開発助言） ・実証講座モデル校 ・新卒作業員人材の育成・輩出
○行政機関 埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課 ・他の県立高校に対する業界及び事業のPR ・人材プラットフォームへの参画促進 ・地域事業としての高校-専門学校連携に対する意見、提案、監督
○専門学校 学校法人中央情報学園 中央情報専門学校 学校法人麻生塾 麻生情報ビジネス専門学校 ・産業界ニーズを反映した上位カリキュラム開発 ・高校との教育コンテンツ連携 ・新卒職長（責任者）レベル人材の育成・輩出 ・事業モデルの全国水平展開を見据えた福岡モデルの展開、実践

○企業

株式会社東京リーガルマインド＜事業コーディネーター＞

- ・高校→専門学校→電気通信工事業界の一気通貫型の人材プラットフォームを構築・運営
- ・職業教育、人材マッチングイベント企画実施
- ・在学中及び入職後のキャリアコンサルタントの派遣
- ・事業モデル全国水平展開のコーディネート

JESCO エキスパートエージェント株式会社 他 6 社

- ・必要とされる人材像、教育、及びキャリアパスの再定義
- ・本プログラムからの新卒人材採用
- ・業界の及び職業の若者に対する PR(職業体験など
- ・業界紹介イベントにおけるセンター施設利用体験プログラムの提供

第2節 令和6年度の実施内容

第1項 実施内容の全体像

1. 事業推進体制の整備

R5 成果:埼玉県立大宮工業高校の事業参加、全国水平展開の足掛かりとなる麻生情報ビジネス専門学校、ヒューマンキャンパス高等学校福岡学習センターの事業参加、通信制高校との連携基盤

R6 課題:通信制高校との連携の発展。

全国展開のための足掛かりとなる福岡県の工業高等学校の開拓・協力の拡充

R6 成果:埼玉県立大宮工業高校の事業参加、全国水平展開の足掛かりとなる麻生情報ビジネス専門学校、ヒューマンキャンパス高等学校福岡学習センターの事業参加、通信制高校との連携基盤

2. 意識調査アンケートの実施

R5 成果:全国の対象となりうる高校 80 校へアンケート依頼、31 校の学生 1871 名より回答

R6 課題:アンケート項目の簡素化、高校へ依頼アプローチ方法の改善

R6 成果:全国の対象となりうる高校 80 校へアンケート依頼、39 校の学生 1475 名より回答。専門学校 30 校へアンケート依頼、11 校の学生 188 名より回答

3. 開発した教育コンテンツの実証講座の実施

R5 成果:

- ① 三郷工業技術高校にて昨年度開発した CCNA/CCENT 講座の実施及び教材の改修
- ② ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター、及び松陰高校みなとみらい学習センターにて
- ③ 年度開発した「情報」の 3/4 部分に当たる「ネットワークとセキュリティ」講座の実施
- ④ 通信建設エンジニアリング入門講座の改修及び中央情報専門学校での講座の実施
- ⑤ 高校における業界キャリア教育の理解度を図るための理解度確認テスト開発

R6 課題:

全体的に今後の全国水平展開としての足掛かりとなる福岡県での事業展開を意識しながら進める。

- ①CCNA/CCENT 講座内容の改修をもとに同三郷工業技術高校で講座実施をするとともに、川口工業高校、大宮工業高校それぞれの受講者特性に合わせたアレンジ及び実施する事で 3 校からの Learning アウトカムを集計したい。また、同様の講座を福岡県の工業高校にて実施できる体制を整備したい。
- ②ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター、及び松陰高校みなとみらい学習センターにて「情報」の 3/4 部分に当たる「コミュニケーションと情報デザイン」講座を開発、実施するとともに、福岡県での講座実施を実現したい。
- ③通信建設エンジニアリング入門講座において習得した知識に加えて、職場での実践力向上を図るため、実技編を開発、実施する。
- ④高校における業界キャリア教育を業界企業による講話等をアレンジして生徒の興味を啓発する活動をしたい。接触する高校が県立高校と広域通信制高校があるためオンラインライブ講座等内容や実施方式のアレンジを要する。

- ⑤高等学校の一部の学生がチャレンジする「IT パスポート試験」を題材に高校と専門学校との間で資格取得をテーマとして連携した試験対策講座を教育開発コンテンツとして開発、実証したい。特に就労経験のない学生が弱点としている「マネジメント/ストラテジ系」についてのかみ砕いた内容に注目している。

授業のやり方を標準化し、教育可能な講師を量産するために講師用の教材を開発

R6 成果:

- ①三郷工業技術高校にて昨年度開発した CCNA/CCENT 講座(セキュリティ編)の実施及び教材の改修
- ②ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター、及び松陰高校みなとみらい学習センターにて今年度開発した「情報」の 3/4 部分に当たる「ネットワークとセキュリティ」講座の実施
- ② 通信建設エンジニアリング入門講座の改修及び中央情報専門学校での講座の実施
- ③ 高校における業界キャリア教育の理解度を図るための理解度確認テスト開発

4.業界紹介イベントの開催

R5 成果:高校生 80 名以上、専門学校生 20 名以上のイベント参加を予定。広域通信制高校の在校生を意識したオンライン参加型のイベント「通建バナーデザインコンテスト」を実施予定。

R6 課題:オンラインでのイベントの集客及び参加への強化。福岡県にてどのようにリアル体験型イベントを実施するのか検討。

R6 成果:ミライトワン市川研修センターにて高校生 124 名、専門学校生 22 名のインターンシップイベント参加。ヒューマンキャンパス高校福岡校にて高校生 30 名参加の体験イベント実施。

5.通信建設プラットフォーム(ホームページ)開設・運営

R5 成果:通建プラットフォームの改修、LMS 機能の搭載、オンラインイベント

R6 課題:SNS を駆使して SEO 対策を講じ、フォロワー数増加及びプラットフォームサイトへの誘導の強化。これまで開発した教育コンテンツのプラットフォームとしてコンテンツの実装。

R6 成果:通建プラットフォームの改修、LMS 機能の搭載、オンラインイベント

第2項 事業推進体制の整備

○事業を推進する上で設置した会議

会議名①	令和6年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」実施委員会		
目的・役割	事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、活動内容の承認・評価、活動成果の評価		
検討の 具体的内容	事業目的と推進協力のコンセンサスを得る。 全体のスケジュールと令和6年度実施項目確認。 イベント及び連携プログラム開発、並びに実証の仕様の承認。 調査結果・開発成果の評価、成果物の承認などに関する討議。 実働により確認された課題と次年度申し送り事項(優先事項)を協議。		
委員数	11人	開催回数	4回

令和6年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」実施委員会の構成委員

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	小菅 厚	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
2	市川 直洋	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校 副校長 就職部長	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	中西 徳孝	学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ 麻生情報ビジネス専門学校	調査・開発協力・評価	福岡県
4	高橋 秀夫	埼玉県教育局県立学校部 高校教育指導課産業教育・キャリア教育担当 指導主事	調査・開発協力・評価	埼玉県
5	後藤 泰介	埼玉県立川口工業高等学校 進路指導部	調査・開発協力・評価	埼玉県
6	佐藤 幸一	埼玉県立三郷技術工業高等学校 情報通信科	調査・開発協力・評価	埼玉県
7	万沢 一成	埼玉県立大宮工業高等学校 電気科	調査・開発協力・評価	埼玉県
8	湯山 俊樹	学校法人山口松陰学園 松蔭高等学校 校長	調査・開発協力・評価	山口県 東京都
9	唐澤 輝	学校法人佐藤学園 ヒューマンキャンパス高等学校東日本ブロック長	調査・開発協力・評価	埼玉県
10	川寄 正人	株式会社東京リーガルマインド 公共事業本部 マネージャー	事業統括	東京都
11	大野 賢蔵	株式会社東京リーガルマインド 事業責任者	事業統括	東京都

第3項 意識調査アンケートの実施

○事業を推進する上で実施した調査

調 査 名	意識調査アンケート
調 査 目 的	電気通信工事業界の認知度測定、経年推移測定 業界の認知度の段階的向上・業界に対するイメージ向上
調 査 対 象	全国の工業高等学校、情報通信科・情報技術科に在籍する高校生1年生・2年生、全国の情報系の専門学校の生徒が対象。
調 査 手 法	WEBアンケート ① 意識調査の対象となる学科設置校を検索・抽出し、学校長・教頭・学科担当教員に趣旨を説明、了承を得たうえで、WEBアンケートのQRコードをメールで送付、学生への配布を依頼。 ② 業界紹介イベント会場での実施
調 査 項 目	電気通信建設業界に対するイメージ、就職や進路選択、学校生活に関する事柄、社会情勢への意識等 32 項目
分 析 内 容 (集 計 項 目)	※アンケート結果の分析内容(集計項目)は、グラフにて後述
調 査 結 果	全国の高校対象学科設置校80校への呼びかけに対し35校1475名、専門学校30校への呼びかけに対し11校188名より回答を取得。

全国の工業高等学校、情報通信科・情報技術科

に在籍する高校生1年生・2年生

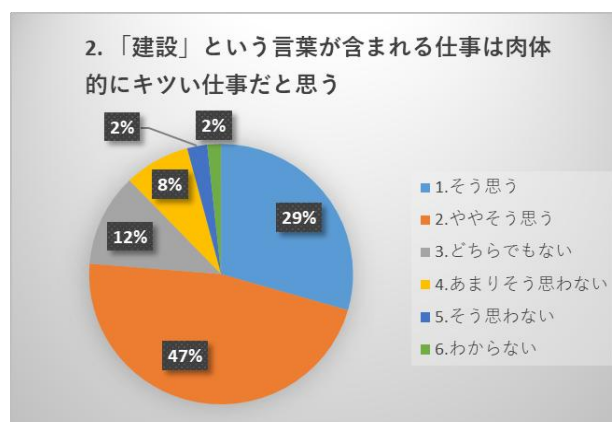
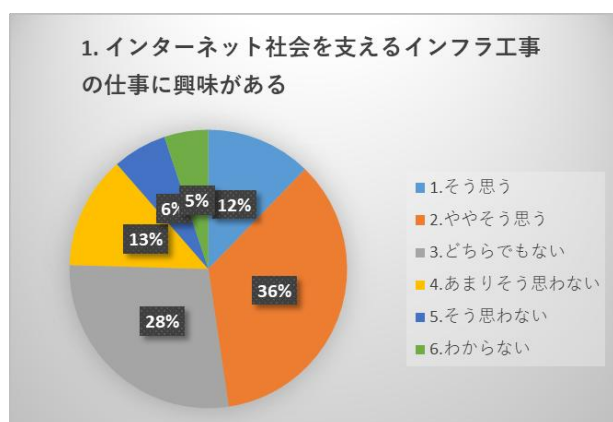
【アンケート回答高校一覧】

北海道	旭川工業高等学校	東京都	東京科学大学附属科学技術高等学校
青森県	弘前工業高等学校*	福井県	科学技術高等学校
青森県	八戸工業高等学校*	福井県	坂井高等学校
岩手県	花北青雲高等学校	愛知県	名古屋工業高等学校
宮城県	登米総合産業高等学校*	愛知県	名古屋市工業高等学校
秋田県	大館市桂桜高等学校*	三重県	桑名工業高等学校
山形県	米沢工業高等学校*	大阪府	茨木工科高等学校
茨城県	土浦工業高等学校	岡山県	笠岡工業高等学校
栃木県	那須清峰高等学校	岡山県	水島工業高等学校
群馬県	渋川工業高等学校	香川県	坂出商業高等学校
群馬県	前橋工業高等学校	愛媛県	今治工業高等学校
埼玉県	越谷総合技術高等学校	高知県	高知県宿毛工業高等学校
埼玉県 千葉県	久喜工業高校*	熊本県	開新高等学校
	三郷工業技術高等学校*	熊本県	八代工業高等学校
	川越工業高等学校	鹿児島県	鹿児島情報高等学校
	川口工業高等学校*	鹿児島県	薩南工業高等学校
	大宮工業高等学校*		鹿児島工業高等学校
	東総工業高等学校*		

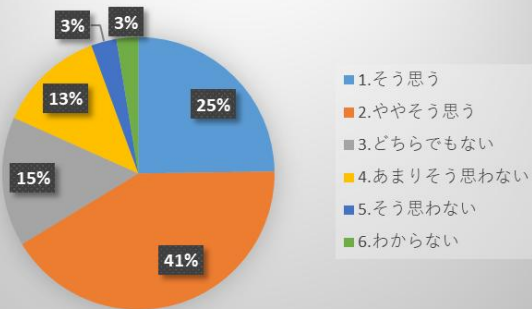
調査結果

アンケートへの回答集計結果(n=1,475)

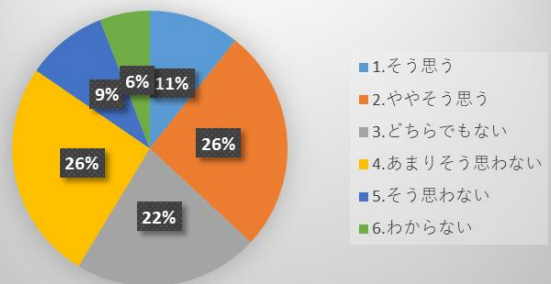
通信業界に対するイメージ



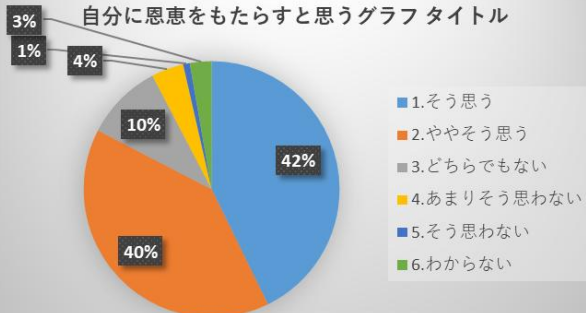
3. 「通信」という言葉から、国家資格や民間資格などの取得が必須だと感じる



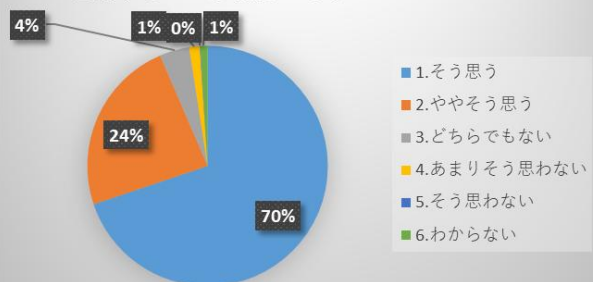
4. 「通信建設」という言葉から、仕事は常に危険が伴うと思う



5. 「通信」の知識やスキルは日常生活においても自分に恩恵をもたらすと思うグラフタイトル

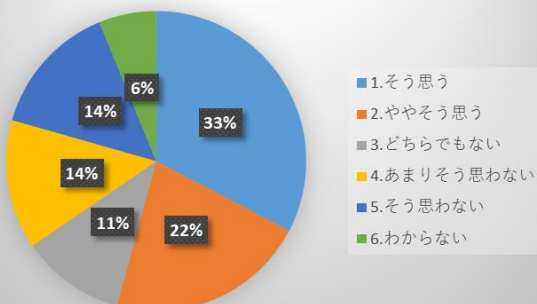


6. 携帯電話やインターネットに関する知識は生活するのに必要だと思う

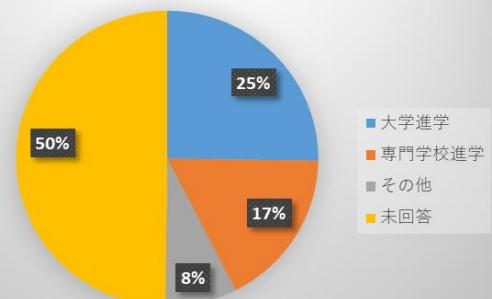


就職に対するイメージ

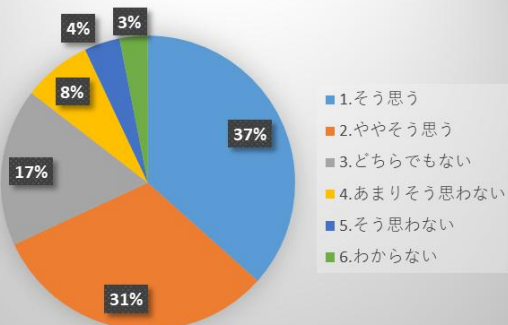
7. 高校を卒業したらすぐに就職したい



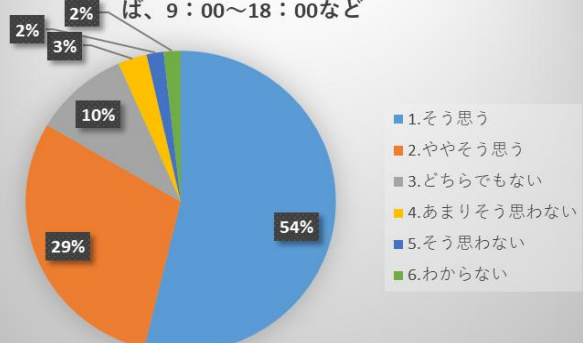
8. 前問で3、4、5 と回答した生徒へ 卒業後の希望進路は？

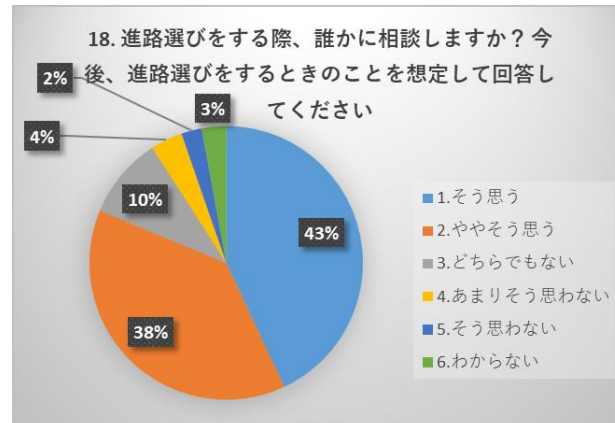
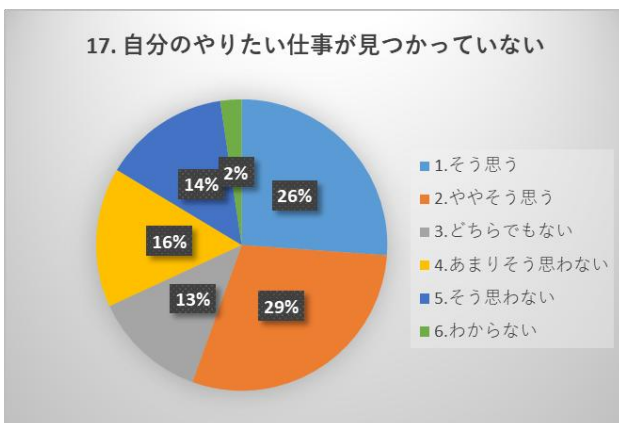
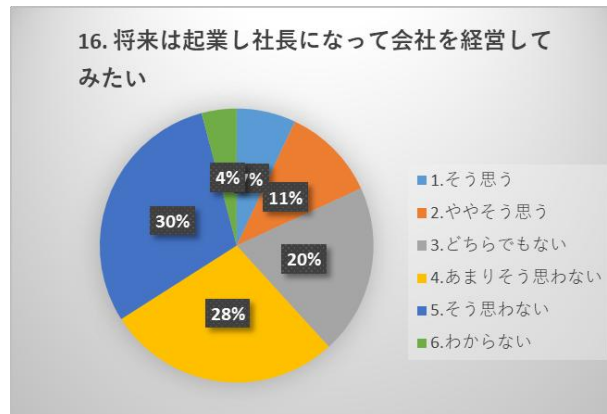
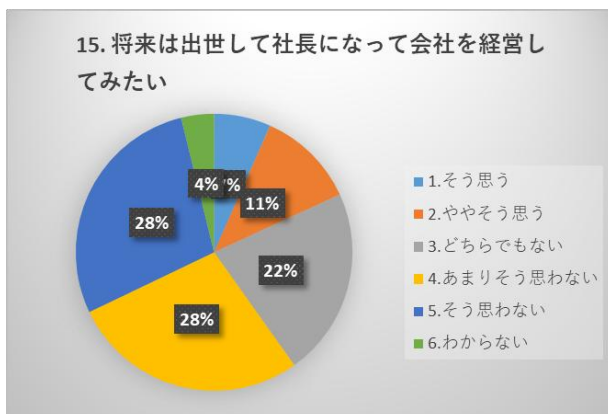
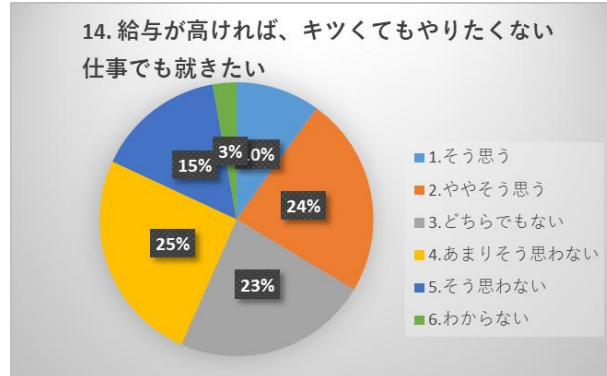
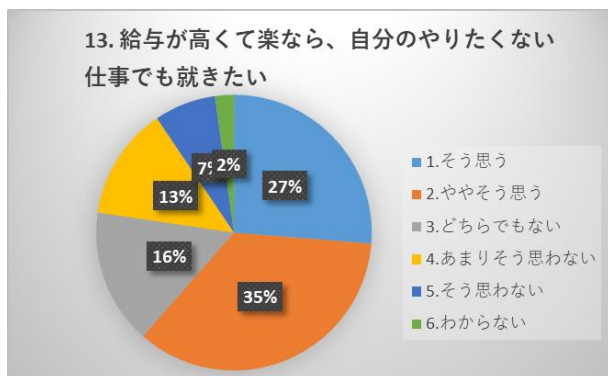
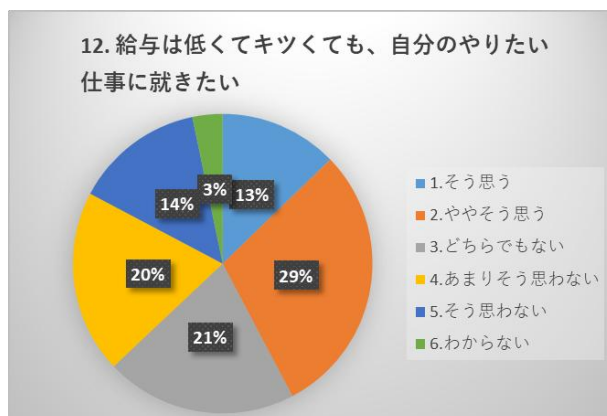
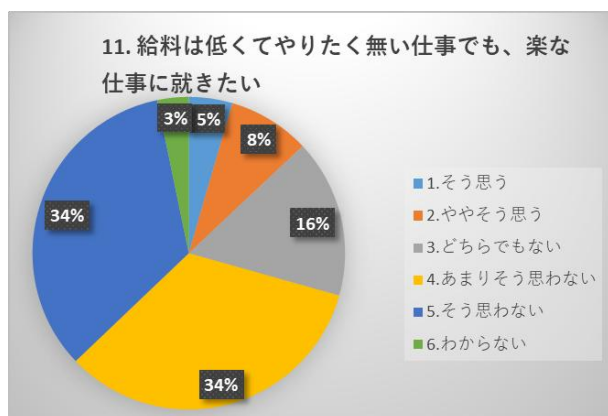


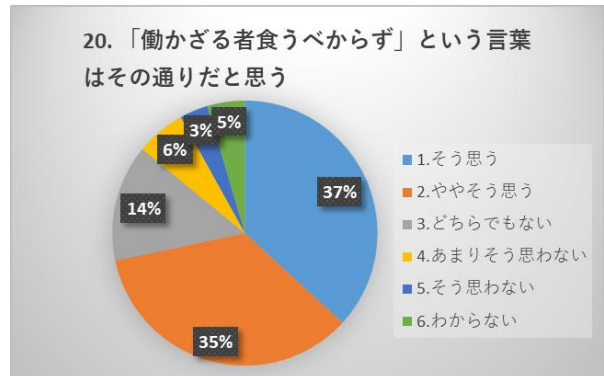
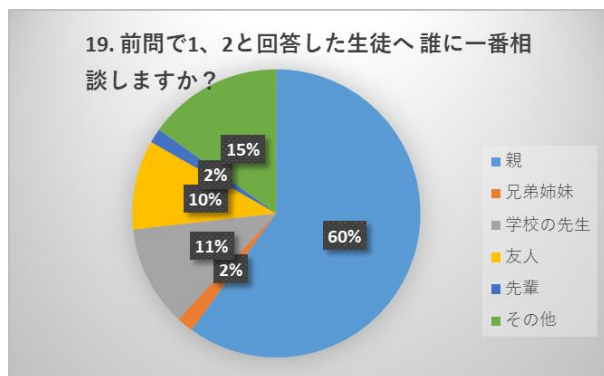
9. 自宅から通勤可能な範囲で仕事をしたい



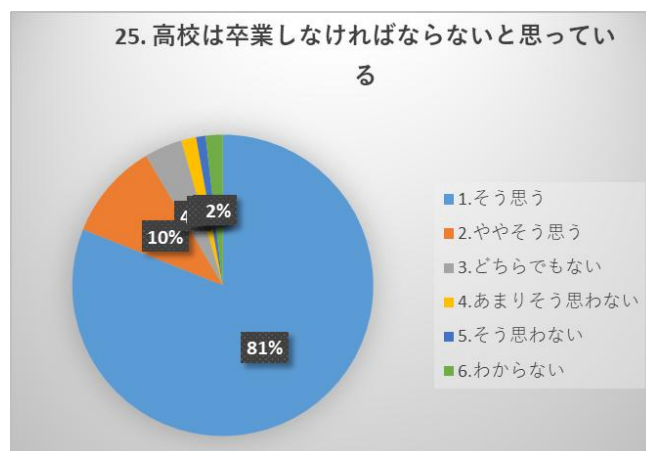
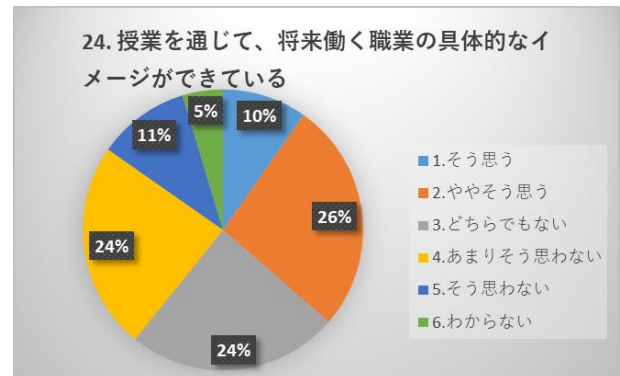
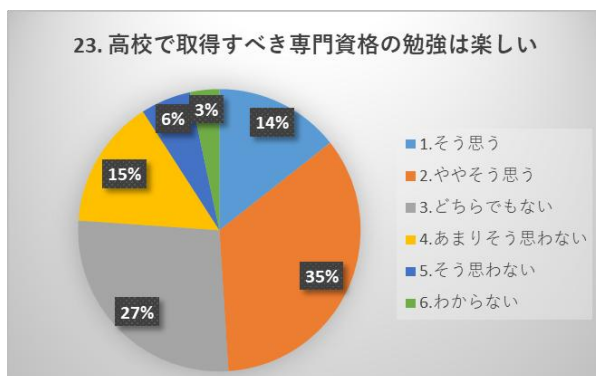
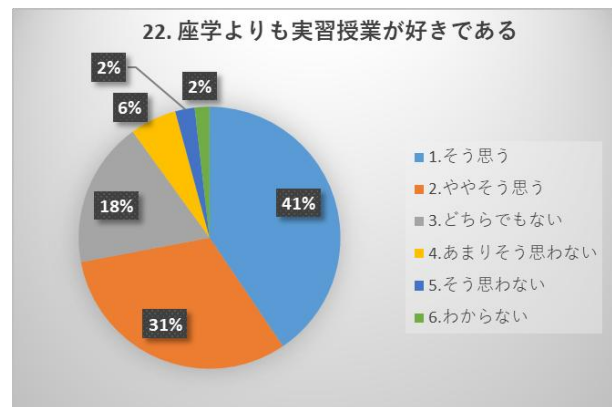
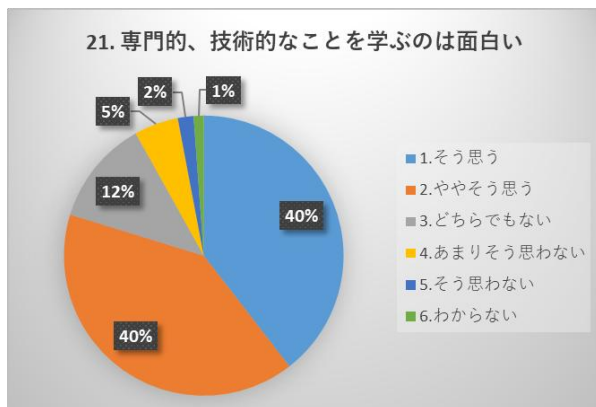
10. 時間が定まっている仕事に就きたい例えば、9：00～18：00など

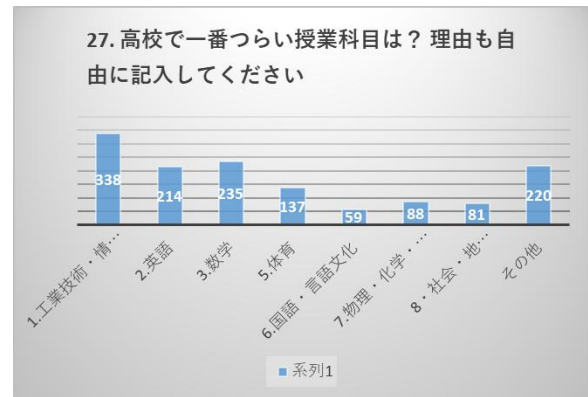
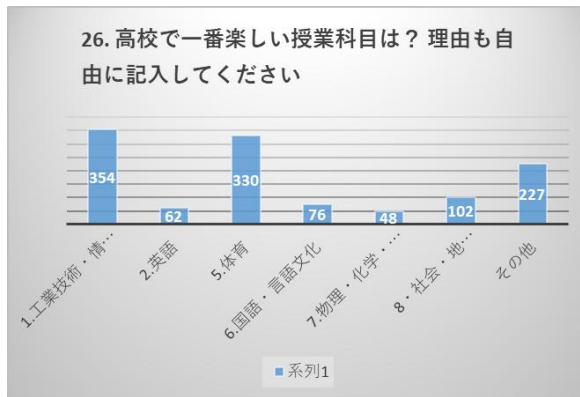




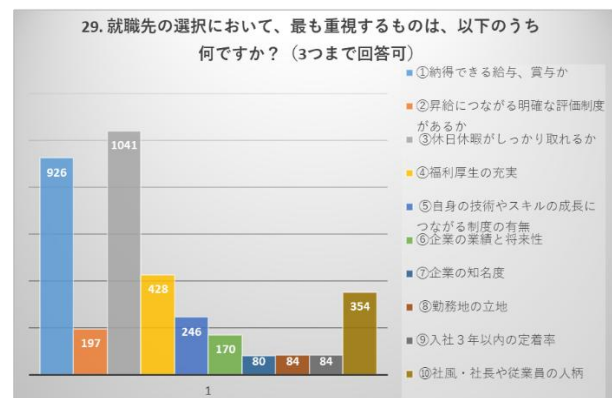
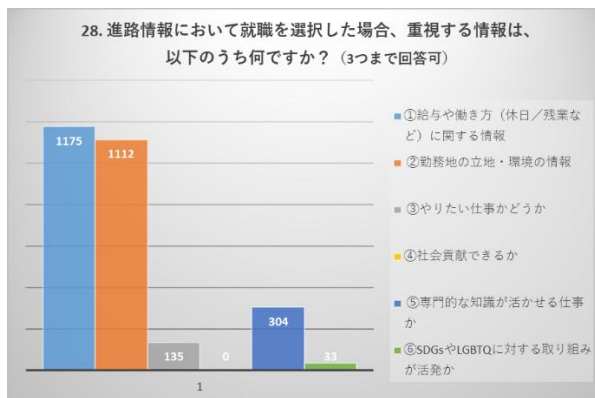


高校生活に対するイメージ

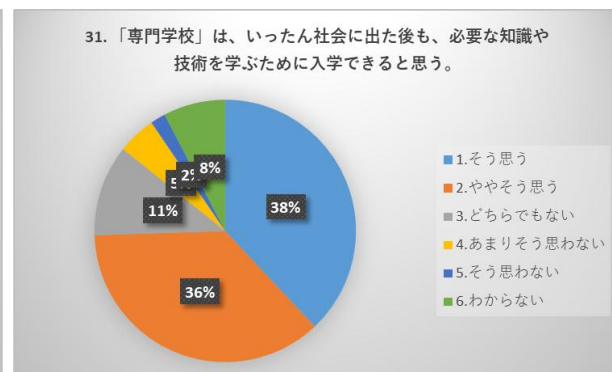
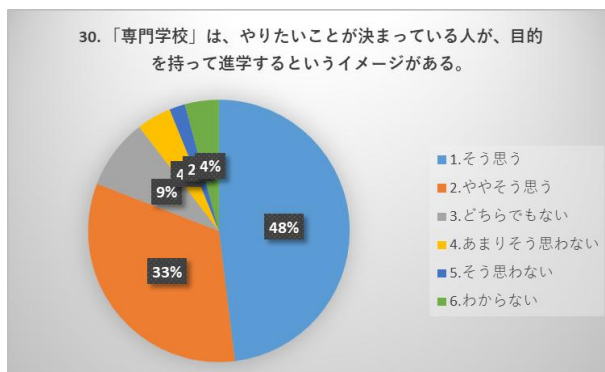




進路選択に対するイメージ



専門学校に対するイメージ

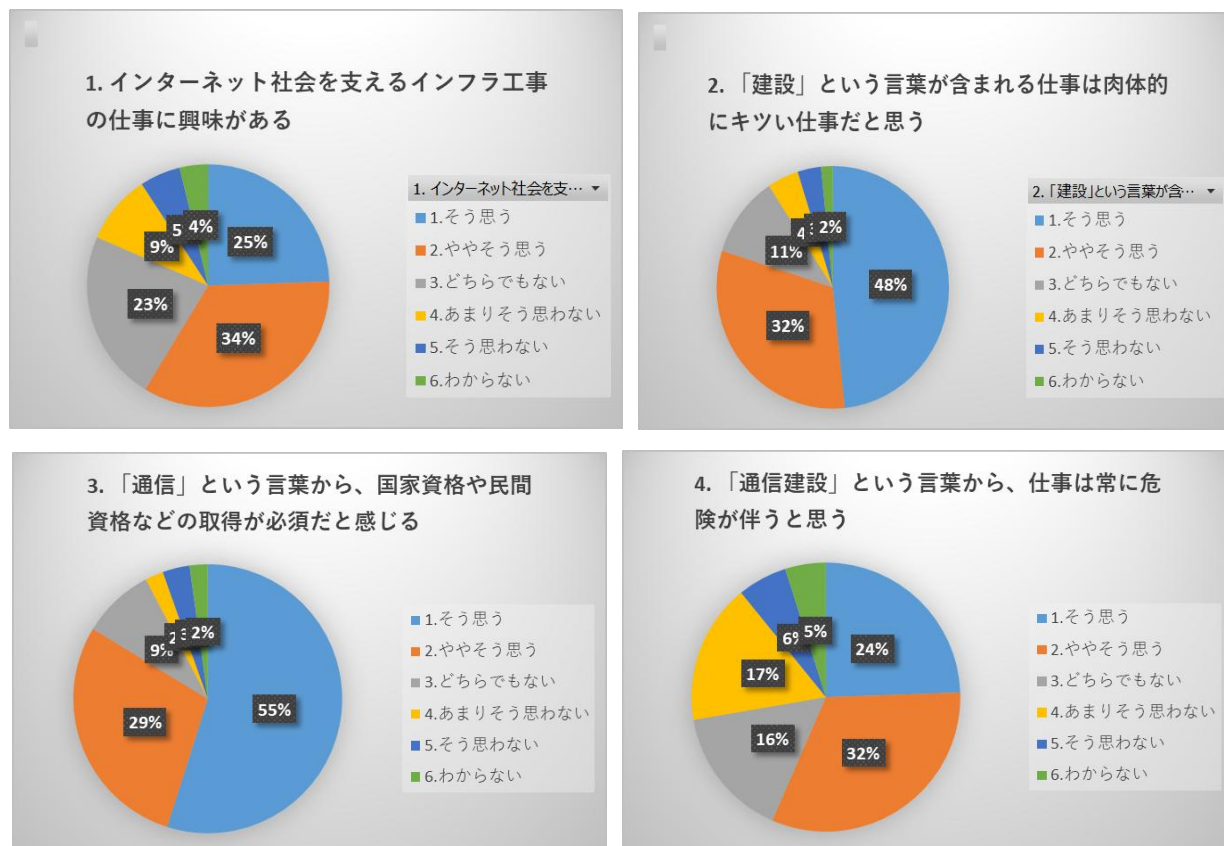


全国の情報系の専門学校生徒

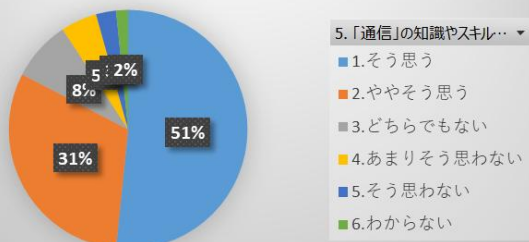
【アンケート回答専門学校校一覧】

学校名	回答者数	学校数 11 校
ユービック情報専門学校	16	187 名
九州中央リハビリテーション学院	5	国籍
九州電気専門学校	3	人数
広島工学院大学校	7	日本 169
国際情報工科自動車大学校	19	中国 7
新潟工科専門学校	21	台湾 1
専門学校広島工学院大学校	7	ミャンマー 2
東北電子専門学校	38	ベトナム 1
日本工学院八王子専門学校	18	ネパール 2
日本電子専門学校	44	その他 5
ユービック情報専門学校	2	総計 187
工学院八王子専門学校	7	
総計	187	

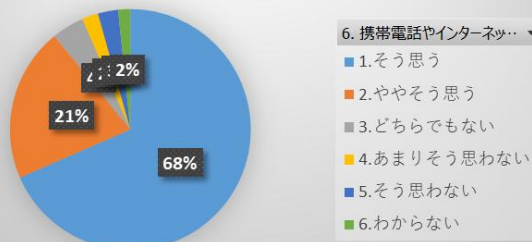
通建業界に対するイメージ



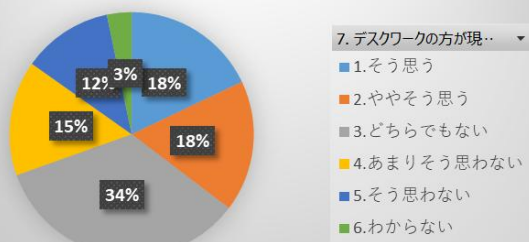
5. 「通信」の知識やスキルは日常生活においても自分に恩恵をもたらすと思う



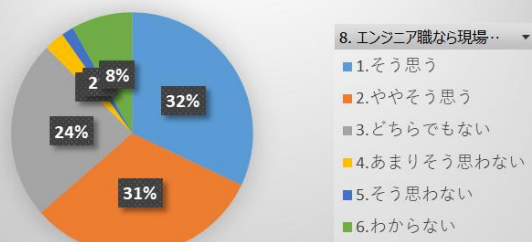
6. 携帯電話やインターネットに関する知識は生活するのに必要だと思う



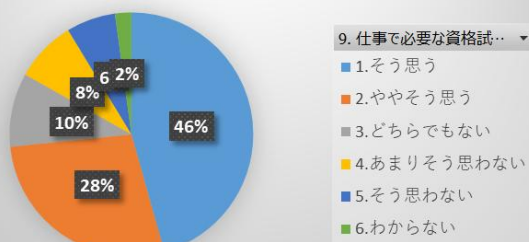
7. デスクワークの方が現場仕事よりも良い



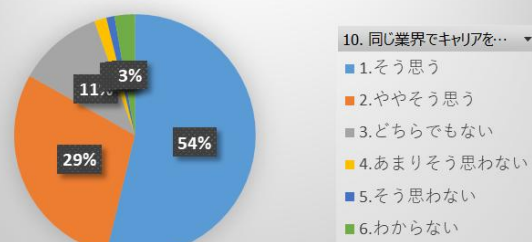
8. エンジニア職なら現場仕事が含まれても良い



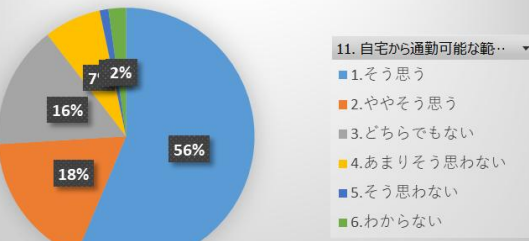
9. 仕事に必要な資格試験合格に不安を感じる



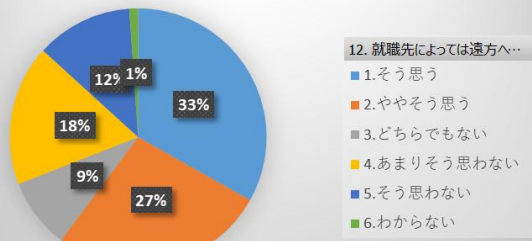
10. 同じ業界でキャリアを積んで長く働きたい



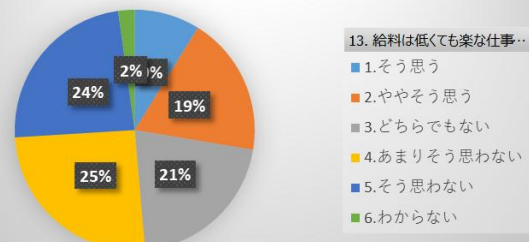
11. 自宅から通勤可能な範囲で仕事をしたい



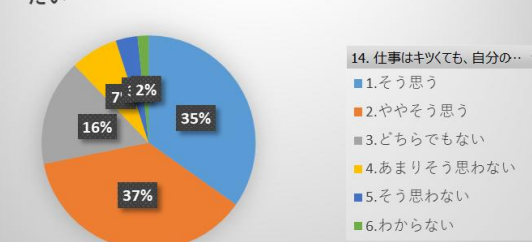
12. 就職先によっては遠方への引っ越しも仕方ない



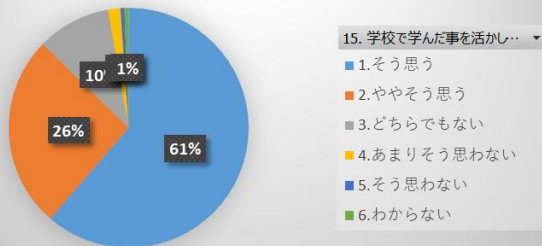
13. 給料は低くても楽な仕事に就きたい



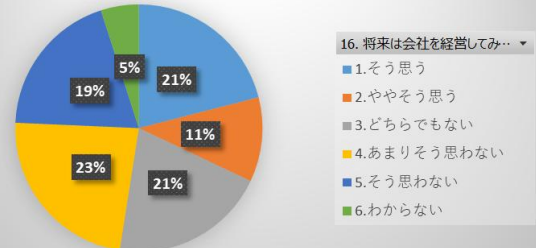
14. 仕事はキツくても、自分のやりたい仕事に就きたい



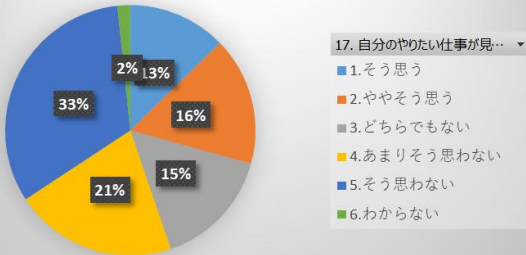
15. 学校で学んだ事を活かして就職したい



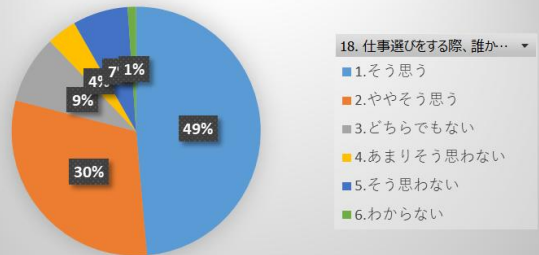
16. 将来は会社を経営してみたい



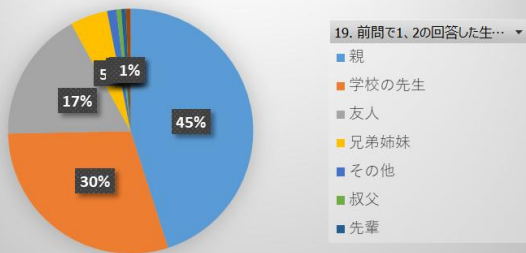
17. 自分のやりたい仕事が見つかっていない



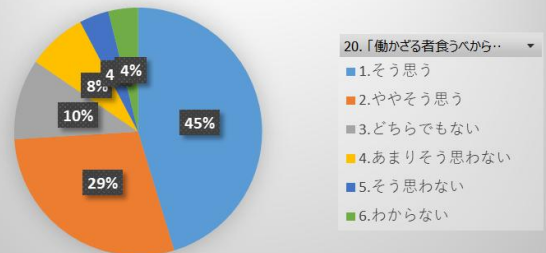
18. 仕事選びをする際、誰かに相談しますか？



19. 前問で1、2の回答した生徒へ 誰に一番相談しますか？

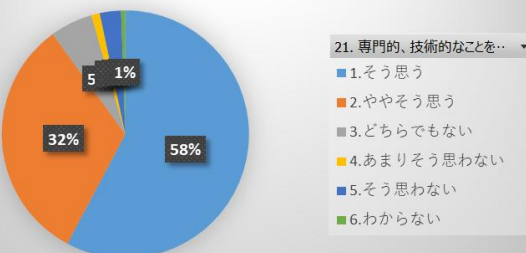


20. 「働かざる者食うべからず」という言葉はその通りだと思う

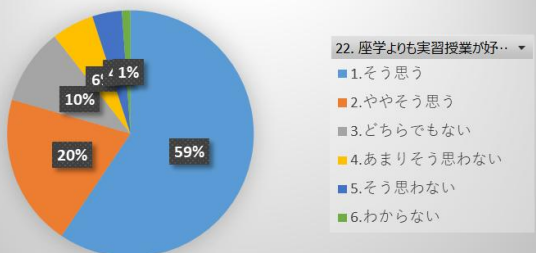


高校生活に対するイメージ

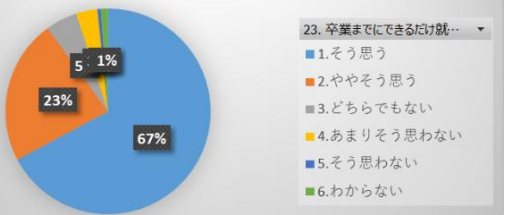
21. 専門的、技術的なことを学ぶのは面白い



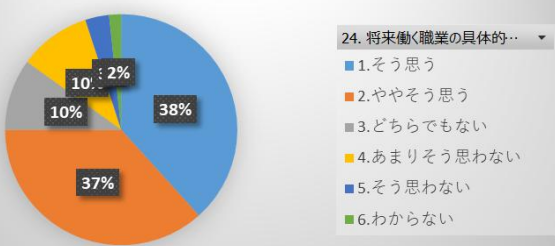
22. 座学よりも実習授業が好きである



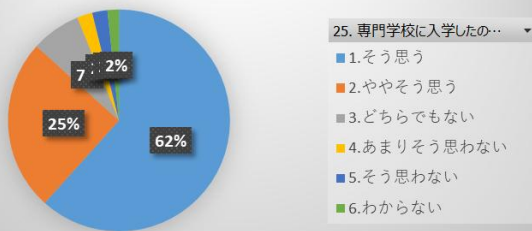
23. 卒業までにできるだけ就職に役立つ資格を取得したい



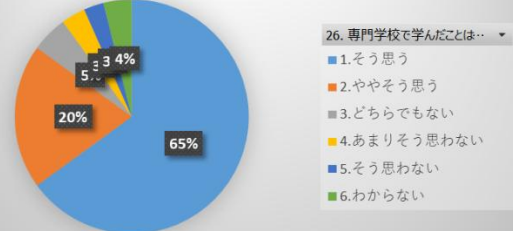
24. 将来働く職業の具体的なイメージがある



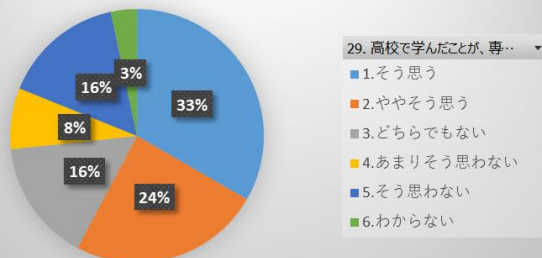
25. 専門学校に入学したのは、その業界に就職するためである



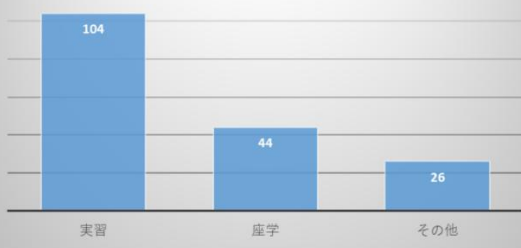
26. 専門学校で学んだことは社会に出てから役に立つと思う



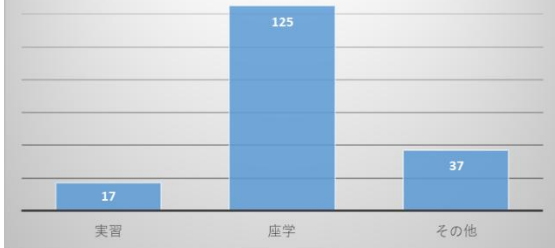
29. 高校で学んだことが、専門学校で役に立っていると思う。



27. 専門学校で一番楽しい授業科目は？

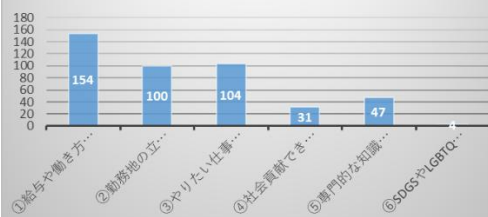


28. 専門学校で一番つらい授業科目は？

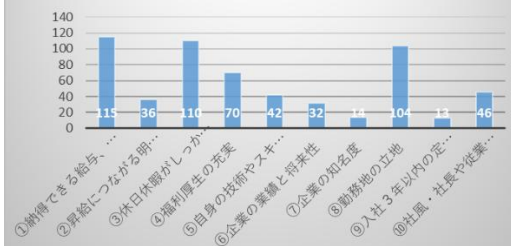


進路選択に対するイメージ

28. 進路情報において就職を選択した場合、重視する情報は、以下のうち何ですか？（3つまで回答可）



29. 就職先の選択において、最も重視するものは、以下のうち何ですか？（3つまで回答可）



第4項 教育コンテンツの開発と実証講座の実

○ 開発した教育コンテンツの概要

- I 通信建設エンジニアリング入門講座(実技編)
- II 情報科目における入門プログラム(ネットワーク編)
- III CCNA/CCENT を目的としたネットワーク授業用教材改訂版(セキュリティ)

I 通信建設エンジニアリング入門講座改訂版

「建設分野(ライフライン・設備)特定技能1号評価試験テキスト」の実技を要する部分を図解も含めて分かりやすく テキスト化し、確認テストを作成実施。今年度は知識編・実技編を学んだあとのレベルチェックテストを開発することで、通信建設エンジニアリング入門講座のパッケージ化を完了する。業界について未知である広域通信制高校の生徒や専門学校の学生に対して「当業界で働いてみたい」という意欲や理解をアンケートや確認テスト結果等から測定し更なるコンテンツの質向上を図りたい。

II 情報科目における入門プログラム(セキュリティ編)

ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター及び松陰学園高校みなとみらい学習センターの実証講義は、「情報1」における情報モラル・セキュリティ項目として提案。効果・導入の検証を実施。

また、前年度までに開発した「情報1」教育コンテンツにて通信制高校における単位科目の3/4相当をカバーしており、今年度で単位科目分を網羅する予定である。教員用の指導ガイドを追加開発することで、本事業の成果の1つとして通信制高校における教科「情報」コンテンツを各校自力で実施できるようにする。また、令和8年度に大宮工業高校と浦和工業高校の合併により開校する新しい工業高校において想定される「情報科」においても活用可能かどうかの検討も行う。

III CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク授業用教材改訂版

令和6年度はシスコシステムズによるCCNA資格を参照した実証講義コンテンツ内容の難易度を下げ、高校生の興味を持たせる為にセキュリティ部分を強化して改修し、三郷工業技術高等学校にて実施。高等学校と専門学校による連携体制構築も実証趣旨に含む。電気通信工事業界の業務がOSI参照モデルによるところのレイヤ1～2を中心とした業務にある一方で、当該講座の範囲であるレイヤ3～4においても接点がある点、業界企業において業務の範疇にある企業も多数あるとの観点から、情報インフラコースを専攻している生徒18名に対し、同校の実習時間コマ9時間を使用することで高専産連携授業として授業計画に盛り込んだ。講座内容としてはCCNA資格取得に向けての入門的な位置づけであるが、高校生のネットワーク通信に対する意識付けが重要であるという観点から、次年度はさらにかみ砕いた内容のエントリー講座を展開すると共に情報セキュリティコンテストというイベントを実施する事で目標や学習の動機付けを強化したい。

○ 開発した教育コンテンツの実証講座の実施

電気通信工事業界のための人材育成モデル構築事業

Cisco パケットトレーサーによるネットワーク構築

三郷工業技術高等学校

実証講義(第 1 グループ 3 日、第 2 グループ 3 日、計 6 日間実施)

【第 1 グループ 1 回目】

1. 日時: 令和 6 年 9 月 10 日(火) 4 時限～6 時限
2. 場所: 三郷工業技術高等学校
3. 出席者: 生徒 7 名、佐藤先生(検討委員)
秋山講師(株式会社ヒューマンパワー)
4. 実証講義 実施内容

★2 台の PC を接続

PC-PC のシンプルな構成。
クロスケーブルで接続。
プライベート IP とサブネット割当て。
ipconfig コマンド実施。
ping コマンド実施。
PC-A と PC-B で疎通確認。

★3 台の PC を接続

【これ以降は Cisco パケットトレーサーを使用】
PC3 台からスイッチにストレートケーブルで接続。
PC-A と PC-B と PC-C で相互に ping 疎通確認。

★スイッチの設定の仕方、確認の仕方を知りたい

1 台のスイッチにコンソールケーブルでノート PC を接続。
説明した各種コマンドを TeraTerm で実施。

★異なるネットワークにある機器を接続したい

PC-SW-RT-SW-PC の構成。
初めに RT-A にノート PC から、コンソールケーブルで TeraTerm で接続して、I/F の IP アドレス設定など投入して、sh run で確認。
異なる NW 間の PC(PC-A と PC-B)の ping 疎通確認。

【第1グループ2回目】

1. 日時: 令和6年9月17日(火) 4時限～6時限

2. 場所: 三郷工業技術高等学校

3. 出席者: 生徒5名、佐藤先生(検討委員)

秋山講師(株式会社ヒューマンパワー)

事務局 若林(東京リーガルマインド)

4. 実証講義 実施内容

★異なるネットワークにある機器を接続したい

PC-SW-RT-SW-PCの構成。

初めにRT-AにノートPCから、コンソールケーブルでTeraTermで接続して、I/FのIPアドレス設定など投入して、sh runで確認。

異なるNW間のPC(PC-AとPC-B)のping疎通確認。

★遠隔からルータを操作

上記で構築した、PC-SW-RTを使って、PC-AからRT-Aに、コマンドプロンプトからTelnetコマンドで接続。

★スタティックルーティング

PC-SW-RT-RT-SW-PCの構成。

初めにRT-AとRT-BにノートPCから、コンソールケーブルでTeraTermで接続して、I/FのIPアドレスやスタティックルーティングなどの設定を投入して、sh run、sh ip routeで確認。

192.168.10.0のネットワークから、192.168.30.0のネットワークを経由して192.168.20.0のネットワークに到達。

PC-AとPC-Bでping疎通確認。

5. 実証講義 実施風景



【第1グループ3回目】

1. 日時: 令和6年9月24日(火) 4時限～6時限

2. 場所: 三郷工業技術高等学校

3. 出席者: 生徒8名、佐藤先生(検討委員)

秋山講師(株式会社ヒューマンパワー)

事務局;大野・若林(東京リーガルマインド)

4. 実証講義 実施内容

★スタティックルーティング

PC-SW-RT-RT-SW-PCの構成。

初めにRT-AとRT-BにノートPCから、コンソールケーブルでTeraTermで接続して、I/FのIPアドレスやスタティックルーティングなどの設定を投入して、sh run、sh ip routeで確認。

192.168.10.0のネットワークから、192.168.30.0のネットワークを経由して192.168.20.0のネットワークに到達。

PC-AとPC-Bでping疎通確認。

★自動でPCにIPアドレスを付与①

PC(複数台)-SW-RTの構成。

初めにRT-AにノートPCから、コンソールケーブルでTeraTermで接続して、I/FのIPアドレス設定、DHCPの設定など投入して、sh ip dhcp bindingで確認。次にPC-A、PC-Bをスイッチに接続し、IPアドレスプールからIPが付与されたことを、再度sh ip dhcp bindingで確認。

具体的には、192.168.10.1と192.068.10.2が付与される。

★自動でPCにIPアドレスを付与②(一部アドレスはDHCPの対象から除外)

上記で構築した構成に、PC-Cを追加。

初めにRT-AにノートPCから、コンソールケーブルでTeraTermで接続して、ip dhcp excluded-addressで除外するアドレス(192.168.10.2～192.168.10.5)を設定。次にPC-Cをスイッチに接続し、除外対象のIPアドレスが付与されないことを確認。

具体的には、192.168.10.6が付与される。

★アクセス制限

初めにRT-AにノートPCから、コンソールケーブルでTeraTermで接続して、I/FのIPアドレスなどの設定を投入。次に、PC-Aは接続を許可、PC-Bは接続を拒否するよう、設定を投入する。同様に、PC-Cは接続を許可、PC-Dは接続を拒否するよう、学生に自身で考えて設定させる。答えは1つではなく、インバウンドでもアウトバウンドでも、permitでもdenyでもいいので、PC-Cは接続できてPC-Dは接続できないことを確認させる。pingコマンドでの疎通確認で接続の可否を判断する。

5. 実証講義 実施風景



【第2グループ1回目】

1. 日時: 令和6年10月12日(土) 1時限～3時限
2. 場所: 三郷工業技術高等学校
3. 出席者: 生徒8名、佐藤先生(検討委員)
秋山講師(株式会社ヒューマンパワー)
事務局;大野(東京リーガルマインド)

4. 実証講義 実施内容

★2台のPCを接続

PC-PCのシンプルな構成。
クロスケーブルで接続。
プライベートIPとサブネット割当て。
ipconfig コマンド実施。
ping コマンド実施。
PC-AとPC-Bで疎通確認。

★3台のPCを接続

【これ以降はCiscoパケットトレーサーを使用】
PC3台からスイッチにストレートケーブルで接続。
PC-AとPC-BとPC-Cで相互にping疎通確認。

★スイッチの設定の仕方、確認の仕方を知りたい

1台のスイッチにコンソールケーブルでノートPCを接続。
説明した各種コマンドをTeraTermで実施。

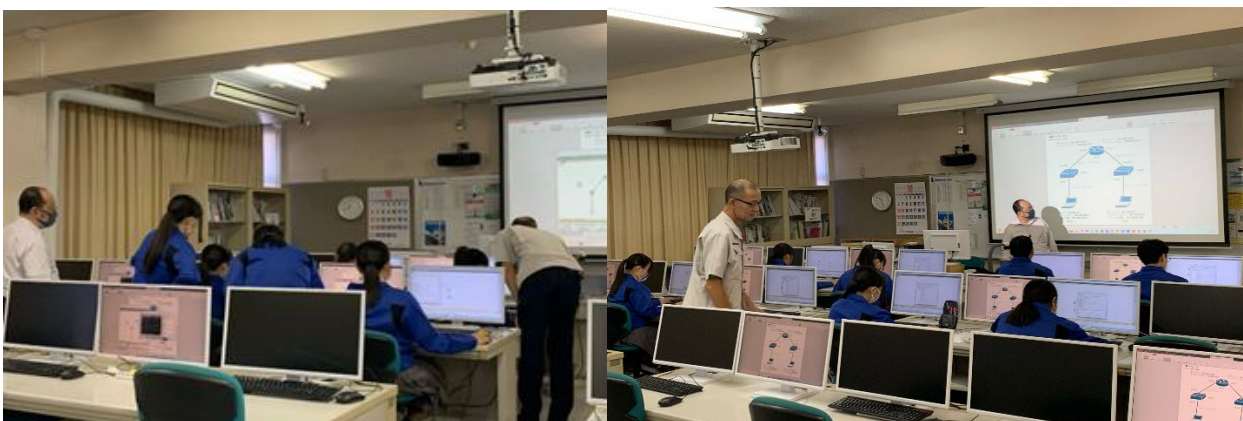
★異なるネットワークにある機器を接続したい

PC-SW-RT-SW-PCの構成。
初めにRT-AにノートPCから、コンソールケーブルでTeraTermで接続して、I/FのIPアドレス設定など投入して、sh runで確認。
異なるNW間のPC(PC-AとPC-B)のping疎通確認。

★遠隔からルータを操作

上記で構築した、PC-SW-RTを使って、PC-AからRT-Aに、コマンドプロンプトからTelnetコマンドで接続

5. 実証講義 実施風景



【第 2 グループ 2 回目】

1. 日時: 令和 5 年 11 月 05 日(火) 4 時限～6 時限
2. 場所: 三郷工業技術高等学校
3. 出席者: 生徒 8 名、佐藤先生(検討委員)
秋山講師、小林様(株式会社ヒューマンパワー)
諮問委員;渡邊先生(専修大学)
事務局;大野・若林(東京リーガルマインド)

4. 実証講義 実施内容

★遠隔からルータを操作

上記で構築した、PC-SW-RT を使って、PC-A から RT-A に、コマンドプロンプトから Telnet コマンドで接続。

★スタティックルーティング

PC-SW-RT-RT-SW-PC の構成。

初めに RT-A と RT-B にノート PC から、コンソールケーブルで TeraTerm で接続して、I/F の IP アドレスやスタティックルーティングなどの設定を投入して、sh run、sh ip route で確認。

192.168.10.0 のネットワークから、192.168.30.0 のネットワークを経由して 192.168.20.0 のネットワークに到達。

PC-A と PC-B で ping 疎通確認。

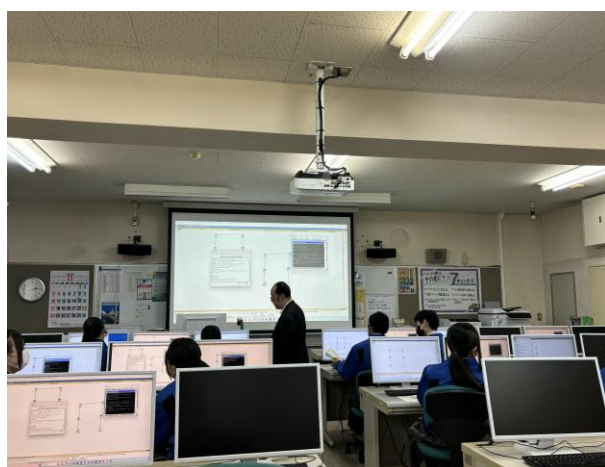
★自動で PC に IP アドレスを付与①

PC(複数台)-SW-RT の構成。

初めに RT-A にノート PC から、コンソールケーブルで TeraTerm で接続して、I/F の IP アドレス設定、DHCP の設定など投入して、sh ip dhcp binding で確認。次に PC-A、PC-B をスイッチに接続し、IP アドレスプールから IP が付与されたことを、再度 sh ip dhcp binding で確認。

具体的には、192.168.10.1 と 192.068.10.2 が付与される。

5. 実証講義 実施風景



【第 2 グループ 3 回目】

1. 日時: 令和 6 年 11 月 12 日(火) 4 時限～6 時限
2. 場所: 三郷工業技術高等学校
3. 出席者: 生徒 8 名、佐藤先生(検討委員)
秋山講師(株式会社ヒューマンパワー)
事務局;大野・若林(東京リーガルマインド)

4. 実証講義 実施内容

★自動で PC に IP アドレスを付与①

PC(複数台)-SW-RT の構成。

初めに RT-A にノート PC から、コンソールケーブルで TeraTerm で接続して、I/F の IP アドレス設定、DHCP の設定など投入して、`sh ip dhcp binding` で確認。次に PC-A、PC-B をスイッチに接続し、IP アドレスプールから IP が付与されたことを、再度 `sh ip dhcp binding` で確認。

具体的には、192.168.10.1 と 192.068.10.2 が付与される。

★自動で PC に IP アドレスを付与②(一部アドレスは DHCP の対象から除外)

上記で構築した構成に、PC-C を追加。

初めに RT-A にノート PC から、コンソールケーブルで TeraTerm で接続して、`ip dhcp excluded-address` で除外するアドレス(192.168.10.2～192.168.10.5)を設定。次に PC-C をスイッチに接続し、除外対象の IP アドレスが付与されないことを確認。

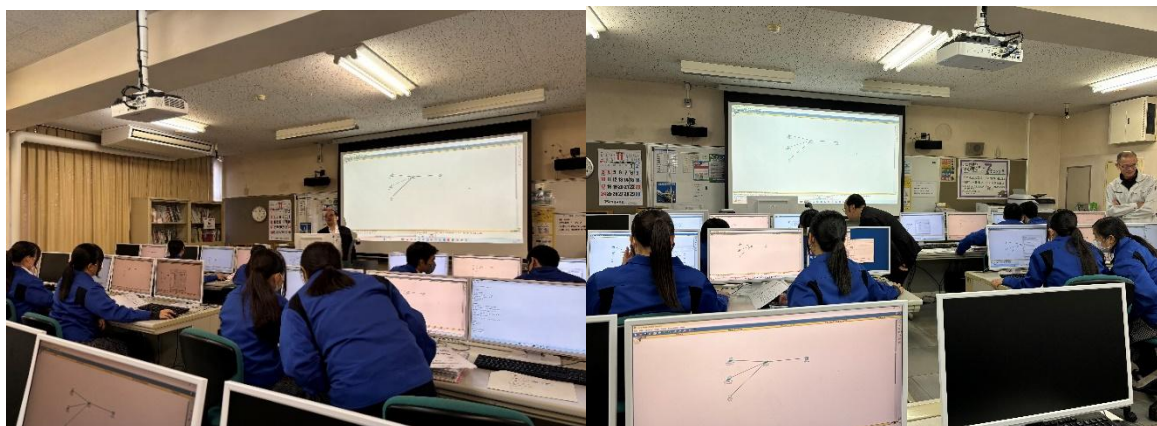
具体的には、192.168.10.6 が付与される。

★アクセス制限

初めに RT-A にノート PC から、コンソールケーブルで TeraTerm で接続して、I/F の IP アドレスなどの設定を投入。次に、PC-A は接続を許可、PC-B は接続を拒否するよう、設定を投入する。同様に、PC-C は接続を許可、PC-D は接続を拒否するよう、学生に自身で考えて設定させる。答えは 1 つではなく、インバウンドでもアウトバウンドでも、`permit` でも `deny` でもいいので、PC-C は接続できて PC-D は接続できないことを確認させる。ping コマンドでの疎通確認で接続の可否を判断する。

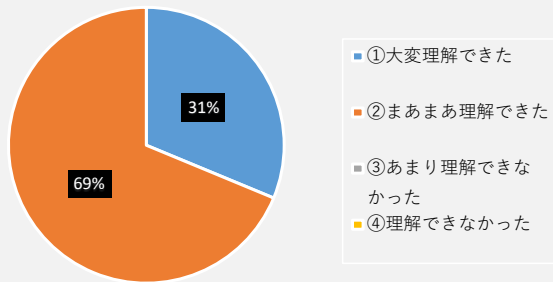
★AccessVLAN でネットワークを分割する

5. 実証講義 実施風景

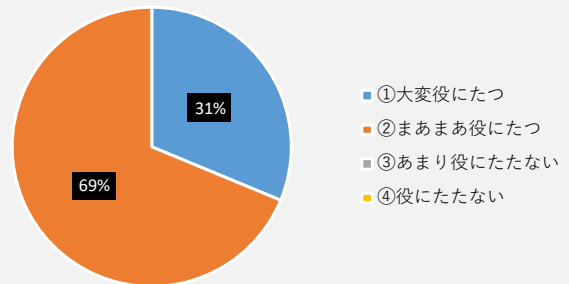


【実証講義 受講アンケート】

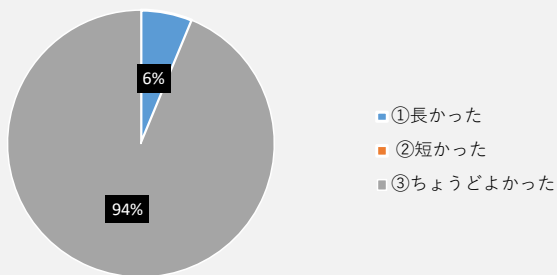
Q1. 実習講義の内容は理解できましたか？



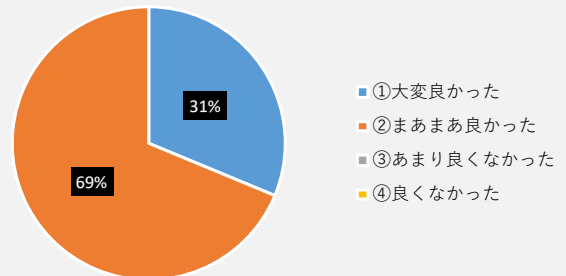
Q2. 実習講義の内容は役にたちましたか？



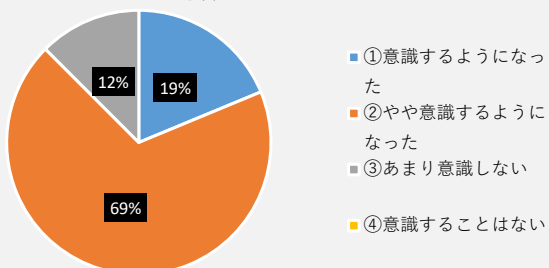
Q3. 3 時限 × 3 日の受講時間についてどのように感じましたか？



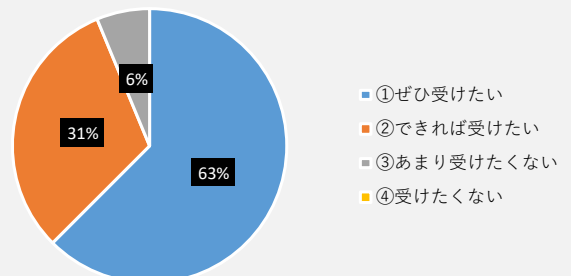
Q4. 実習講義を受講した感想



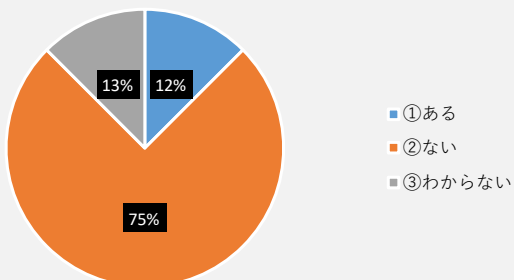
Q5. 実証講義を受けたことで、日常生活でネットワークについて意識するようになったか？



Q6. 外部講師の講義をまた受けてみたいか？



Q7. 講義内容で、疑問点はあるか？



実証講義の感想について、自由記入欄より抜粋

◇ネットワーク構築は、おもしろくて興味が沸いた。最後に話していたセキュリティ関係の事についてもう少し聞きたかった。

◇ネットワーク構築をするにおいてのセキュリティのプログラムやPCとルータとスイッチをつなぐ構築に沢山解説しながら少しでも理解することができました。ネットワーク構築は少ししか学んでこなかったので、ネットワークを上で重要なことを知れました。

3日間ありがとうございました。

◇ネットワークのルータとか設定やセキュリティについて分かった。

目的に応じて様々な決定があることを知った。パスコードは特権モードにも設定できて、する必要があると分かった。実際の環境を想像すると、それぞれがとても大事なんだと分かった。実際の機器を使ってやるのもやってみたいと思った。(むずかしそう)

◇大変分かりやすく教えていただき、苦手意識が薄まりました。とても楽しかったです。

ありがとうございました。

◇文字をパソコンに打ち込むのがまったくできなくて、はじめは、ほとんどついていけなかったが、最後のほうは、少しは打てるようになりました。

◇今回の実証講義で役に立ちそうな事を学ぶことができました。自分は1日受けていない日がありましたが、3日間しっかり受けたいと感じました。

◇複雑で難しいけれど接続できた時や目標を達成できた度に満足できて、とても有意義でした。

◇英語に苦手意識があったので難しいなと感じましたが、しくみが分かればスラスラとコマンドを打てたので、とても楽しい時間でした。

◇自分が働く場所の仕事内容にネットワーク構築が入っているので興味をもって積極的に取り組むよう意識した。以前も似たような実習を受けたが今回、外部の方から教えに来てくださった方がいてより深くネットワーク構築のことを学べた。進みがスムーズで少しだけおいていかれそうになったがなんとかついていけて、ちゃんとできたので良かった。

◇最後に行った課題が時間内に終わらせることができず、どのように設定をすればよかったのか疑問のまままで終わってしまった。やり方がわかるようになるととても楽しくなった。実際のお仕事もこのような感じなのかなと思うと、この職種に興味を持った。

◇難しかったけれど、分かったと楽しく、自分で進められるようになりました。

3週にわたって教えていただきありがとうございました。

◇ややスピードが早いと感じたが、どうすれば良いのか、何をするのか理解することができました。私は卒業後、通信の仕事に就くため、とても今回の講義が役に立つと感じました。短い期間でしたがありがとうございました。

◇進みが早かったですが、その分集中して作業することが出来たので良かったです。

◇去年も行った CISCOPacetTracer ですが、理解度が深まり面白いと初めて感じました。また、ご縁があったらやってみたいです。

◇今回サクサク進んで追加の課題にも取り組むことができて良かったです。
今まで経験したことのないネットワーク構築の仕方について学ぶことが出来ました。
Excelなどの使い方講義等があるとうれしいです。

◇ネットワーク構築は、今まで1回の実習でしか触れておらず、期間も空いていたので忘れていた部分が多い上、最初はなかなか追いつけない状態が続いていました。そういった時は、進行していると声をかけずらいので、何度か確認の声かけや待機が欲しかったです。
内容は、解説を聞くと理解できたのですごく良かったです。講師の方も最後は合わせてくれたのでうけやすかったです。

Q9 将来の希望について自由記入。進路や悩みやご自身の夢等。

◆現場でお客様と立ち合い、施工を行う。

◆情報通信エンジニア 故障修理とかメンテナンスもやりたい。
ゆくゆくは設計・計画などもやりたい。設計の ISC2 とかも調べてみようと思います。

◆通信に関わるエンジニアになりたいです。

◆全国を巡りながら通信を支えられるような技術者になりたいと思っています。

◆通信（施工管理職）

◆通信の道へ進み身として、今回の様な仕事をすることがあるかもしれないので、その時は、今回の講義を生かせるように覚えておきたいと思いました。

◆将来はスポーツ選手の傍に立ち、サポートができる仕事に就きたいと考えています。
進学するため、あまり関わる機会が無くなってしまうのは大変残念ですが、良い経験になりました。

令和6年度工業高校における実証講義 Cisco Packet Tracer によるネットワーク構築 実施高校(三郷工業技術高等学校)	
所感	実証講義として2年目となる。今回受講した生徒達は2年次最後の実習で同じシミュレータを使って基礎実習を6時間ほど実施しており、1年目に感じた不安はあまりなくスタートできた。全体を通した所感は、やはり実習の難易度が上がっていくと、生徒によっては理解よりも作業が優先になってしまった場面もあり、改めて座学でのフォローが重要だと感じた。3週間(9時間)を通して生徒達の反応は、昨年度よりよかったと思う。また進度の早い班も現れ、急遽講師に追加課題を作成してもらった。それらに意欲的に取り組む様子が今回も伺え、実施して良かったと感じている。このような実習は情報通信技術を学ぶ生徒には必要不可欠であると強く思っており、そのために時間数の確保や展開の仕方を工夫しなければと思った。
成果	現場の第一線で活躍している企業のスペシャリストから講義を受けられること自体に大きな価値があると考えている。今回はネットワークの仕組みだけではなく、付随する技術(セキュリティ等)にも興味・関心を持たせ、知識や技能を習得できたことが、昨年とは違う成果であったと感じている。所感でも述べたが、2年次の経験を徐々に思い出してくると作業自体はスムーズに進めることができた。そこに理解が加わると自分で率先して課題に取り組む姿勢や、困っている生徒のサポートにまわる姿も見られ、積極性や協調性も育めた。生徒の中には今回の実習内容を仕事とする者もあり、この経験を企業で役立ててくれるはずと期待ができた。
課題	ネットワーク構築に必要な知識は膨大であり、時間をかけ深く学び、理解をし、それを確認することが必須である。しかし限られた授業時間では大変難しく、そのため生徒は主体的に学ばない限り、広く浅い知識や経験しか持ち合わせることしかできない。今回もシミュレータを用いた実習環境だったが、理想は「実機に触れる」ことのできる実習環境である。またキーボード操作を苦手とする生徒が少なくないことは継続して問題視している。次に指導する教員に対しても専門知識と経験が不足していると感じている。WiFi環境の普及が増加している中で、設定をしなくてもネットワークに繋がってしまう状況はメリットもデメリットも持ち合わせていると思う。教員へのサポート(外部の研修会等)があると大変ありがたい。最後に今回の実習に限らず「生徒に興味関心を持たること」「知識と技能の両方を確実に習得させること」の2点が大きな課題である。

専修学校による地域産業中核的人材養成事業
コミュニケーションと情報デザイン編

ヒューキャンパス高等学校大宮学習センター

1. 日時： 令和 6 年 12 月 17 日(火) 15:00 ～ 16:50
令和 7 年 1 月 23 日(水) 14:00 ～ 15:50
2. 場所： ヒューキャンパス高等学校大宮学習センター
3. 出席者： 生徒;22 名
講師； 寒河江(株式会社ブルーミング)
事務局； 若林(東京リーガルマインド)
4. 実証講義 実施内容
情報セキュリティ講習
◇情報セキュリティとは
・取り組みと機関・情報セキュリティの基礎・セキュリティインシデント
◇情報を守る対策
・アクセス制御・データの暗号化・パスワードの管理・セキュリティソフトウェア
◇実践
Windows ウィルススキャン
◇クラウドコンピューティングとは
・今までの技術との違い ・クラウドコンピューティングの良さ
・クラウドコンピューティングの出来ること
◇身近なクラウドコンピューティングの体験



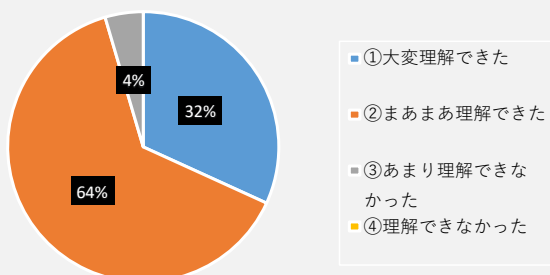
【アンケート結果】

アンケート回答者 22名

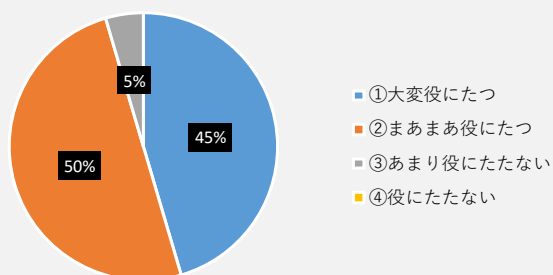
ヒューマンキャンパス高等学校大宮学習センター

Q1	実習講義の内容は理解できましたか？		
①大変理解できた	②まあまあ理解できた	③あまり理解できなかった	④理解できなかった
7	14	1	
Q2	実習講義の内容は役に立ちましたか？		
①大変役にたつ	②まあまあ役にたつ	③あまり役にたたない	④役にたたない
10	11	1	
Q3	2時限×2日の受講時間についてどのように感じましたか？		
①長かった	②短かった	③ちょうどよかった	
8	1	13	
Q4	実習講義を受講した感想		
①大変良かった	②まあまあ良かった	③あまり良くなかった	④良くなかった
10	12		
Q5	実証講義を受けたことで、日常生活でネットワークについて意識するようになったか？		
①意識するようになった	②やや意識するようになった	③あまり意識しない	④意識することはない
6	12	3	1
Q6	外部講師の講義をまた受けてみたいか？		
①ぜひ受けたい	②できれば受けたい	③あまり受けたくない	④受けたくない
8	10	3	1
Q7	講義内容で、疑問点はあるか？		
①ある	②ない	③わからない	
	19	3	

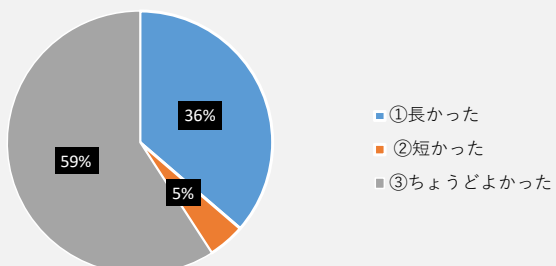
Q1.実習講義の内容は理解できましたか？



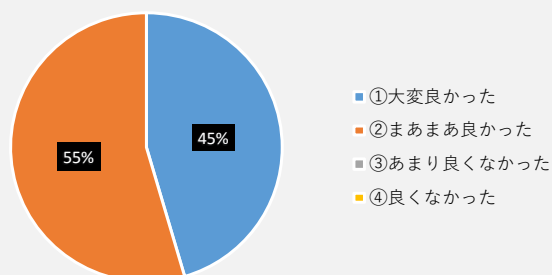
Q2.実習講義の内容は役にたちましたか？



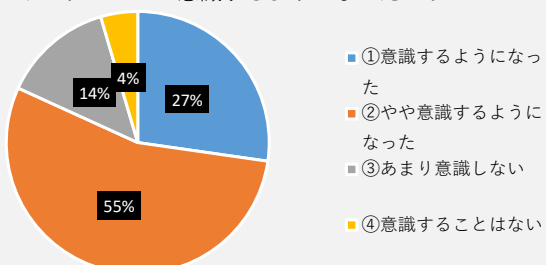
Q3.3時限×3日の受講時間についてどのように感じましたか？



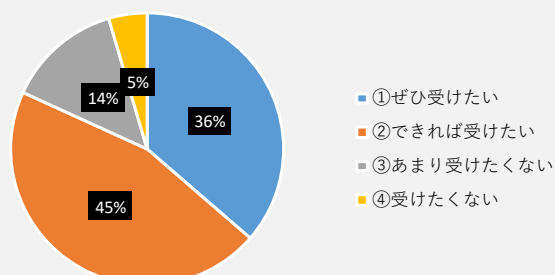
Q4.実習講義を受講した感想



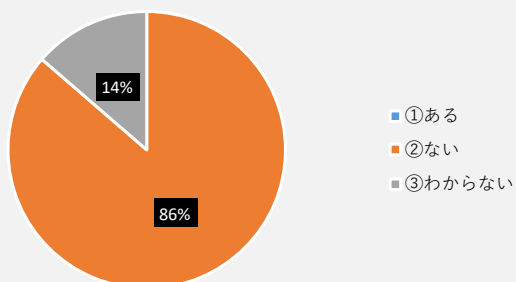
Q5.実証講義を受けたことで、日常生活でネットワークについて意識するようになったか？



Q6.外部講師の講義をまた受けてみたいか？



Q7.講義内容で、疑問点はあるか？



Q8, 感想・要望(自由記入欄)

- ・すごく分かりやすかったと思った
- ・IT 系にはおままであまり興味がなかったが、分かりやすい説明でよく理解できた。
- ・少しお話が難しかったけど、楽しかったです。
- ・今回の授業は、就職でも役に立つ情報だったので今後のためになった。
- ・Web2 現代で、Web3 の世界についてより知りたいと思った。
- ・とても楽しかったです。なかなか、専門的に IT を学ぶことがなかったので聞いてて、新鮮な気持ちでした。
- ・身近にある Excel などの利用目的や RINE などの SNS ツールの仕組みなど、さらに深いところまで知りたいと思えた。
- ・かんたんな話とむずかしい話の差があって、真ん中ぐらいの話をもう少し聞きたかったです。
- ・とても聞き取りやすく、分かりやすい授業でした。
- ・もう少し実習の時間が長ければ良かったと思った。座学だけだと少し飽きてしまうので、実際に自分の力でやる時間を取ってほしかった、寒河江さん(外部講師の方)のお話は分かりやすくて楽しかったです。

Q9, 将来の希望、悩み、夢等(自由記入欄)

- ・メイクアップリスト
- ・将来なりたい職業でコンピューターを使う可能性があるので今回の授業はすごく役に立つと思った。
- ・希望が見出せません。どうしよう！
- ・自分に合った仕事がしたい。
- ・今のバイト先でそのままだががんばりたいと思う。
- ・音楽に携わる仕事。
- ・知識として IT やパソコンをしっておきたい。パソコンを扱う業種についてみたい。
- ・エポック社
- ・ハウジングがしたい。
- ・事務会社員

専修学校による地域産業中核的人材養成事業
コミュニケーションと情報デザイン編

松陰高等学校みなとみらい学習センター

1. 日時: 令和 6 年 12 月 13 日(金) 13:00 ~ 14:50
令和 7 年 1 月 15 日(水) 10:00 ~ 11:50
2. 場所: 松陰高等学校みなとみらい学習センター
3. 出席者: 生徒;20 名
講師; 寒河江(株式会社ブルーミング)
諮問委員;渡邊先生(専修大学)
事務局;若林(東京リーガルマインド)

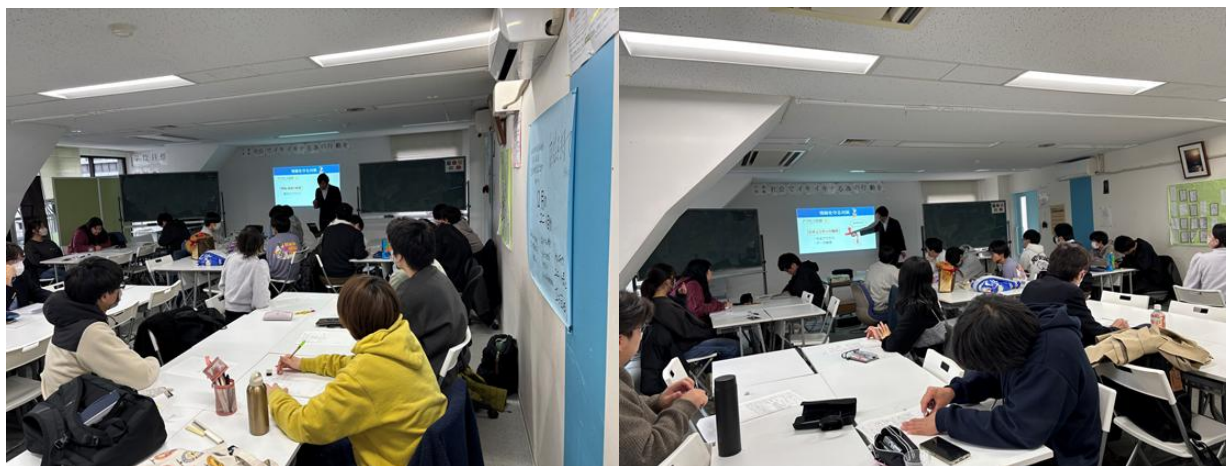
情報セキュリティ講習

- ◇ 情報セキュリティとは
 - ・取り組みと機関 ・情報セキュリティの基礎 ・セキュリティインシデント
- ◇ 情報を守る対策
 - ・アクセス制御 ・データの暗号化 ・パスワードの管理 ・セキュリティソフトウェア
- ◇ 実践

Windows ウィルススキャン

- ◇クラウドコンピューティングとは
 - ・今までの技術との違い ・クラウドコンピューティングの良さ
 - ・クラウドコンピューティングの出来ること
- ◇身近なクラウドコンピューティングの体験

4. 実証講義 実施内容



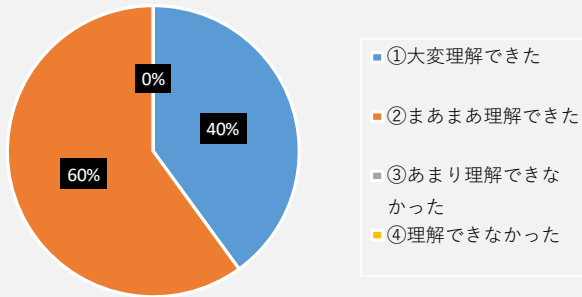


アンケート回答者 20名

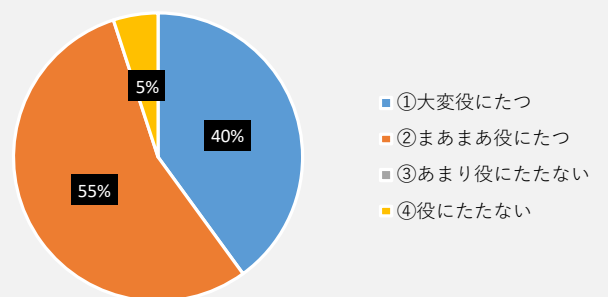
松陰高等学校みなとみらい学習センター

Q1	実習講義の内容は理解できましたか？			
①大変理解できた	②まあまあ理解できた	③あまり理解できなかった	④理解できなかった	
8	12	0	0	
Q2	実習講義の内容は役にたちましたか？			
①大変役にたつ	②まあまあ役にたつ	③あまり役にたたない	④役にたたない	
8	11		1	
Q3	3時限×3日の受講時間についてどのように感じましたか？			
①長かった	②短かった	③ちょうどよかった		
3	1	16		
Q4	実習講義を受講した感想			
①大変良かった	②まあまあ良かった	③あまり良くなかった	④良くなかった	
11	8	1	0	
Q5	実証講義を受けたことで、日常生活でネットワークについて意識するようになったか？			
①意識するようになった	②やや意識するようになった	③あまり意識しない	④意識することはない	
6	11	2	1	
Q6	外部講師の講義をまた受けてみたいか？			
①ぜひ受けたい	②できれば受けたい	③あまり受けたくない	④受けたくない	
9	10	1		
Q7	講義内容で、疑問点はあるか？			
①ある	②ない	③わからない		
1	17	2		

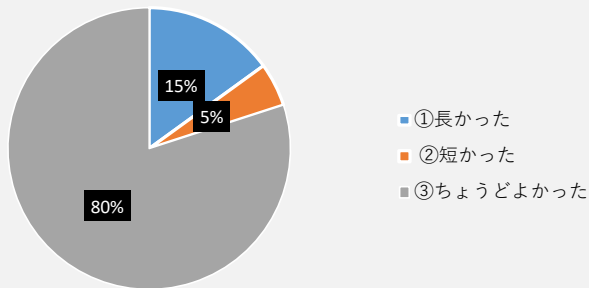
Q1. 実習講義の内容は理解できましたか？



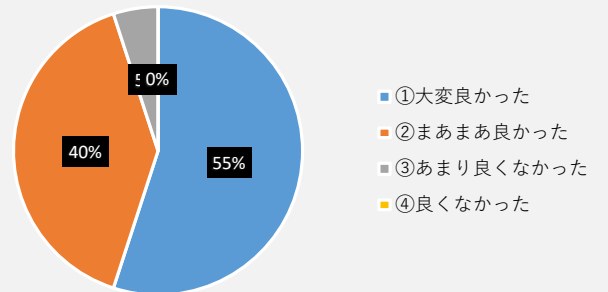
Q2. 実習講義の内容は役にたちましたか？



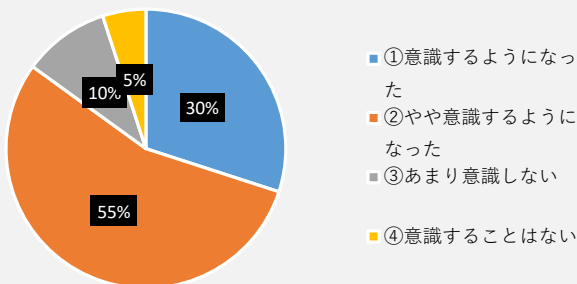
Q3. 3 時限 × 3 日の受講時間についてどのように感じましたか？



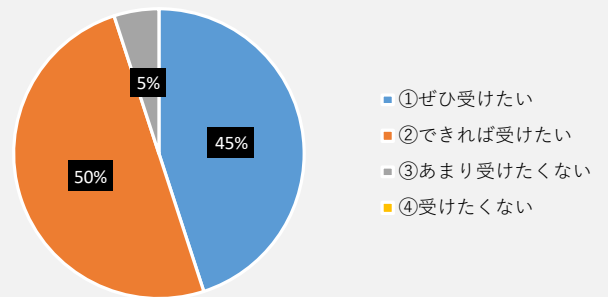
Q4. 実習講義を受講した感想



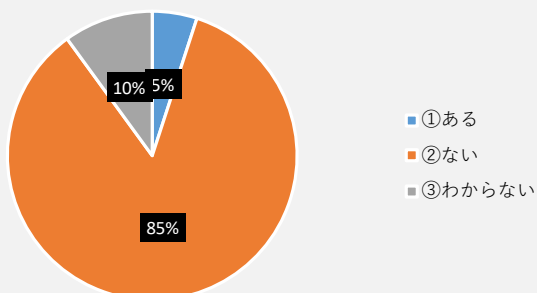
Q5. 実証講義を受けたことで、日常生活でネットワークについて意識するようになったか？



Q6. 外部講師の講義をまた受けてみたいか？



Q7. 講義内容で、疑問点はあるか？



Q8, 感想・要望(自由記入欄)

- ・実際に自分達のスマホやパソコンを使って講義していただいたので、文字の説明より分かりやすく、情報系が苦手なので助かりました。基礎の基礎を学べる授業が欲しいです。
- ・ドライブ等は、普段意識しないで使っていたが、今回の講義を受けて技術の高さや利便性などを認識することができて良かった。
- ・単語は何となく聞いたことがある程度の詳しく知らなかったジャンルの授業だったが、それでも理解できるようなわかり易い講義でした。
- ・普段あまり意識しない部分のお話ですごく興味深かったです。話の内容をくだいて説明してくれていたの、理解もしやすく、楽しかったです。ありがとうございました。
- ・GoogleDrive を実際に使わせながら説明して下さったのが非常に分かりやすかった。
- ・オンプレミスとクラウドコンピューティングを比べてどう違うのか、など細かいところから、メールなど身近に使っているものの話しなど色々してもらい大変勉強になったと感じました。クラウドコンピューティングとの比較をした際の表などとても分かりやすく、頭に入りました。
- ・先生の説明が一つ一つとても分かりやすかったです。
- ・GoogleDrive を使ってはいたが、今日の知った細かい所は知らなかったため、参考になった。昔の物理的なシステム(サーバー等)との違いを知ることができた。
- ・GoogleDrive を使って複数人が同じ画面のデータを編集できるのがすごいと思いました。このような事は将来にもとても活かせると思います。
- ・パソコンでのみんなと共有して書けるところがあるのは知っていたが、それがスマホでもできるなんて今日知れて良かった。今後、活用していきたい！
- ・講義の中であきないように手を動かす時間があるなど、様々な工夫をしてくださっていたので楽しく受けることができました。
- ・ネットリテラシーに気を付けて生きていこうと、初めて思うようになりました。目の中のうつりこみだけで特定されてしまうという便利な反面こわいこともあるという、ネットについての理解を深めることができた。
- ・講義の間時間に OneDrive について聞いたのですが、共有の仕方を知れてとても助かりました。パソコンをあまり使ったことが無かったため、講義内容が興味深かったです。

Q9, 将来の希望、悩み、夢等(自由記入欄)

- ・将来どんな職種でもパソコン等使用すると思うのですが、私自身、情報系に弱いので調べても理解が難しく、基礎を学びたいのですが、何から始めるべきか分からないのが悩みです。
- ・情報システムに関わる職につきたい。
- ・影響力のある著名人(経営者)
- ・つきたい職はありますが、本気で目指したいと思える程、しっかり決まっていない。
- ・将来は鉄道関係につきたいと考えています。コンピュータとどれほど関係があるかわかりませんが将来に向け、分からない用語も少し調べておくのも良いと考えました。
- ・将来、社会に出る時に Gmail あメールソフトの違いを知っておかないと困る時が出てくるかもしれない。
- ・将来 GoogleDrive を使う機会があったらこの授業で学んだ事を活かしたい。
- ・国内のデベロッパー、もしくはパブリッシャーにゲームプランナーかゲームプログラマーとして就職することです。

第 5 項 業界紹介イベントの開催

業界紹介イベント

日時:R6 年 12 月 16 日 午前の部 09:30～12:30 / 午後の部 14:00～16:30

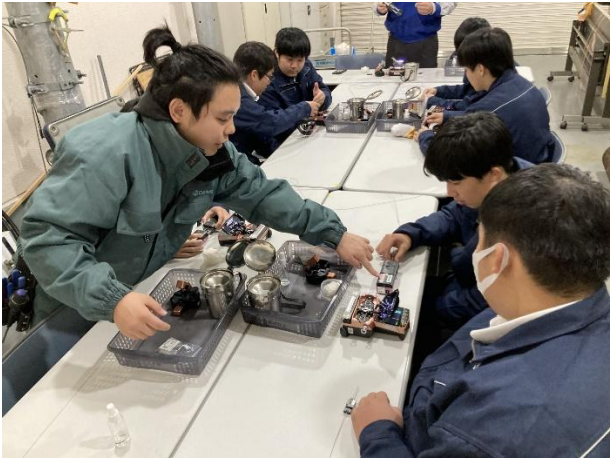
場所:ミライト市川研修センター

参加校:大宮工業高校 / 中央情報専門学校 / 川口工業高校 / 三郷工業技術高校

参加者数	高校生 121 名 / 専門学校生 12 名
------	------------------------

・実施内容

企業の協力を得て指導員も増やし、昨年度から更に VR 体験など職業体験コンテンツの充実を図る一方で、事故のない安全な実施のため誘導体制も強化

光ファイバ融着接続作業体験	鉄塔昇降体験
融着機を使用したケーブル接続体験	ハーネスを装着した鉄塔での作業体験
	
高所作業車 作業体験	ワイヤー移動往復体験
	

VR 動画上映 兼 滞留場所高専連携ブース
VR ゴーグルを高校に配布し VR 動画を体験



VR 動画上映。ゴーグル利用による
「通信エンジニアのお仕事 VR 体験」



企業説明(企業 5 ブース設定、専門学校1ブース)

株式会社ミライト・モバイル・イースト、東電通ネットワーク株式会社、株式会社町田電話工業、株式会社井上通信、JESCO
ホールディングス株式会社、中央情報専門学校



屋上太陽光パネル等設備見学



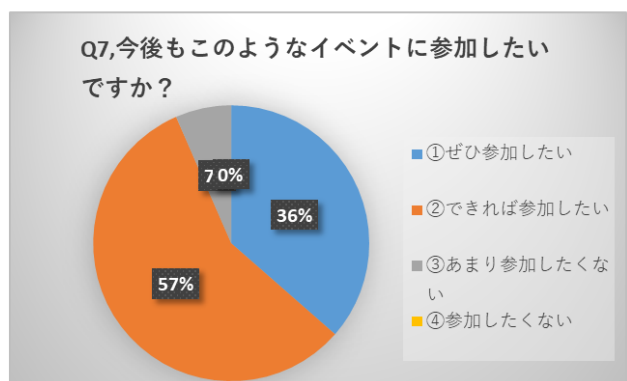
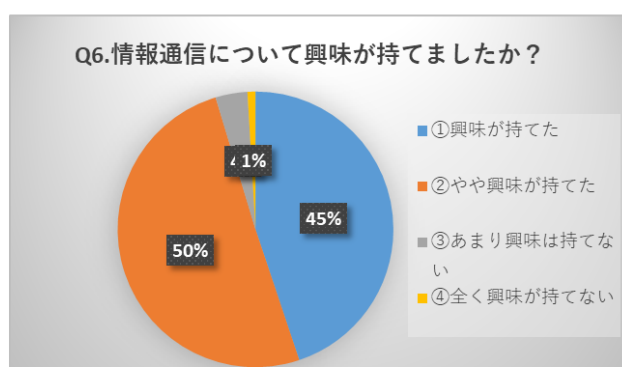
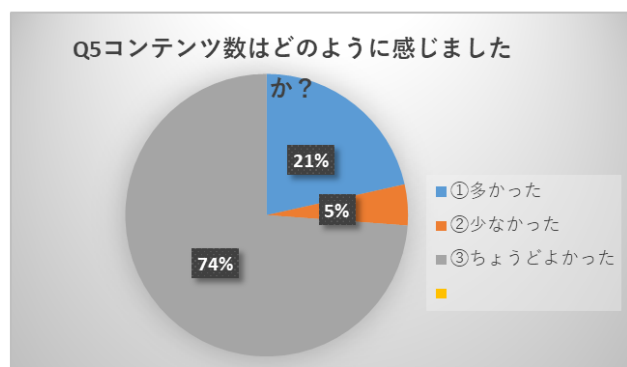
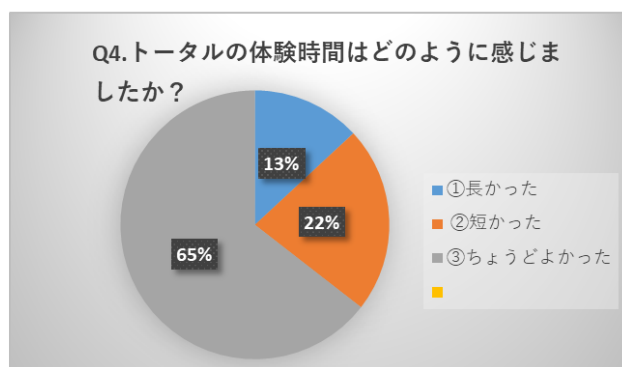
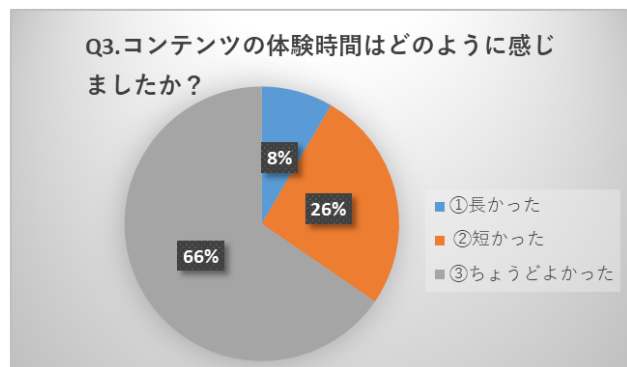
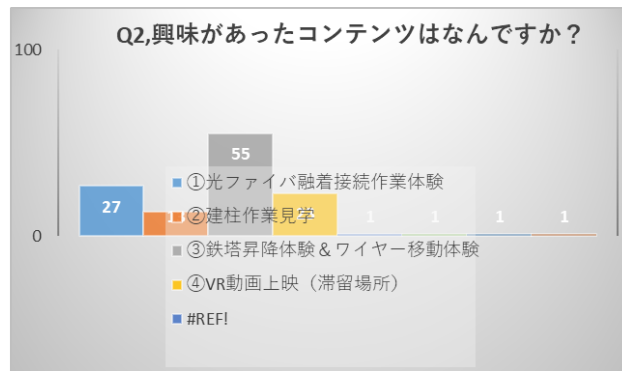
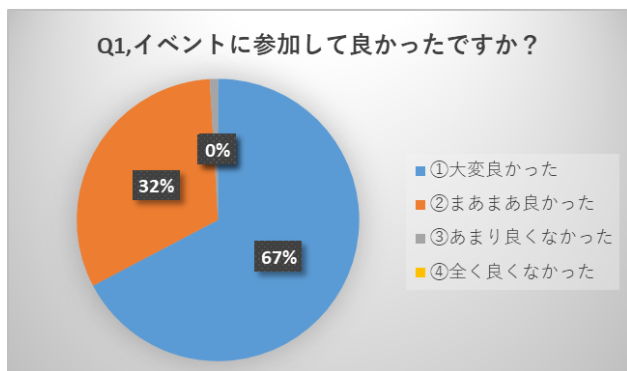
作業用品展示

新旧のユニホームやヘルメットの体験を実施
空調服（熱中症対策商品）・電熱ベスト(防寒対策商品)・ヘルメット（最新の軽量化モデル）



アンケート回答者 107 名（高校生:1年生 60 名 ・2 年生 39 名 専門学校:1年生 8名）

Q1	イベントに参加して良かったですか？		
①大変良かった	②まあまあ良かった	③あまり良くなかった	④全く良くなかった
72	34	1	0
Q2	興味があったコンテンツはなんですか？		
①光ファイバ融着接続作業体験	②建柱作業見学	③鉄塔昇降体験＆ワイヤー移動体験	④VR 動画上映（滞留場所）
27	13	55	23
⑤VR 動画上映（ミライト版）	⑥企業説明ブース	⑦屋上太陽光パネル	⑧作業用品展示
38	17	6	1
Q3	コンテンツの体験時間はどのように感じましたか。		
①長かった	②短かった	③ちょうどよかった	
9	28	70	
Q4	トータルの体験時間はどのように感じましたか。		
①長かった	②短かった	③ちょうどよかった	
14	24	69	
Q5	コンテンツ数はどのように感じましたか？		
①多かった	②少なかった	③ちょうどよかった	
23	5	79	
Q6	情報通信について興味が持てましたか？		
①興味が持てた	②やや興味が持てた	③あまり興味は持てない	④全く興味が持てない
48	54	4	1
Q7	今後もこのようなイベントに参加したいですか？		
①ぜひ参加したい	②できれば参加したい	③あまり参加したくない	④参加したくない
39	61	7	0



Q8, 感想・要望(自由記入欄)

- ・今回のインターンシップイベントに参加して通信の仕事について少し知れたかなと思いました。
- ・私はどの業種にいか悩んでいた私には参加して良かったと感じました。
- ・通信業について、様々な体験ができて、とても有意義な時間だった。
- ・自分はあまり通信分野に興味がなかったのですが、今回のインターンシップに参加して少し興味を持つことが出来ました。
- ・私たちはVRを使い、実際に起きた事故などを体験したが、安全確認は何よりも大切な事なんだなと実感した。ワイヤー移動体験や高所作業車、実際に仕事をしているところを見学、体験させてもらい良い思い出となりました。どのような仕事をするか明確にしたという点も良かった。
- ・とても良い経験をしたなと感じた。普段の日常生活では経験する事の無いとても貴重な体験だと感じた。今回参加したインターンシップで感じたことを大切にしたい。
- ・自分の将来について考えることが出来た。
- ・質問一つ一つていねいに回答してくださってとてもいろんな事を学びました。
- ・普段体験できない事をやってすごく情報通信に興味を持てた。
- ・全体的に学びあるイベントだと感じました。
- ・今回の職業見学で自分の職種に関する知識を広げると共に、新しくやってみたい職業も増えた。
- ・日常ではする事の出来ないような事が出来て楽しかった。
- ・今回は普段乗らない鉄塔とか乗ってみて楽しくコンテンツを楽しめました。
- ・光ファイバ融着接続作業体験がとても楽しかったです。
- ・高所作業の体験、太陽光のパネル、基地局の設備は普段見られないのでとても楽しかったです。デスクワークだけでなく、こういった作業も経験できた方がさらに仕事やコミュニケーションに幅をもてると思うのでとても興味がわきました。
- ・今回のインターンシップイベントでは、さまざまな企業の仕事内容や雰囲気を知ることができ、とてもよかった。特に実際の仕事を体験できたのがおもしろかったです。
- ・インターネットの保守、設置を行う会社のシステムや仕事の説明を聞いた後、インターネット業務への関心が高まりました。屋上太陽光パネルに興味があって、鉄塔昇降体験＆ワイヤー移動体験にも興味を持ちました。

Q9. 将来の希望、悩み、夢等(自由記入欄)

- ・将来にネットワークのセキュリティや通信方法を深く理解して、資格を身につけたいと思っています。
- ・今1番興味がある職種は、通信インフラです。今日のインターンシップイベントも通信インフラなので、選択肢の1つになりました。
- ・将来は通信業に就きたいと思っています。
- ・今は進学したいと思っているけど今のうちにいろんなかいしゃを見ていざ就職な時のやくに立てたい。
- ・企業説明ブースにて、電柱作業などの電気工事に興味を持ちました。
- ・自分の好きなことが少しでも仕事にかかわっていけたらなと思います。
- ・情報系の仕事につきたい。
- ・自分の夢は、情報通信系の仕事につきたいと思っています。
- ・情報通信に関係する仕事につきたい
- ・将来は情報通信業界にも興味を持ちました。
- ・情報通信に関する進路に進みたいです。

大宮工業高等学校	
所感	令和 5 年から引率させていただいており、生徒は毎年違うので、新鮮でいいかと思います。昨年度と違うところでは、VRカメラを用いた安全訓練、高所作業車で実際に一番上まで行かせてもらえたところなど、生徒にとってもよかったかと思います。 短い時間ではありましたが、ありがとうございました。
成果	通信における光ファイバ、LANなどの内容は授業では一切触れていない内容だったので、生徒には新しい領域のことで進路についても、2 年生ということで考えるきっかけにはなっているかと思います。
課題	所感や成果でも書いたが、生徒が通信関係に興味を持っても、座学や作業に関しては機材がなくほとんど取り組めていない状況にある。県内の川口工業高校は通信に特化した授業を展開できているので、知識や、作業などがある程度できる状況にある。 知っていて新たに現場を知るのか、何も知識がない状態で、現場を知るのか。が、検討事項だし、発展させていく課題でもあるかと思う。
中央情報専門学校	
所感	IT の専門学校に在籍する学生は開発系プログラマを志望する学生が多い。しかし、IT 技術を支える通信建設業界の仕事を知ってもらうことでネットワークのインフラレベルにおける構築や運用の仕事を意識させ、学生の就職先業界を広げる事が出来ていると思われる。本イベントを通じて継続的に業界への就職者を輩出することが出来ていることは職業教育の場である専門学校にとって意義のあることと思われる。
成果	初年度のインターンシップイベントに参加し通信建設業界に就職した卒業生は入社 2 年で職長レベルに到達している。高校を卒業して業界に就職する学生よりも 2～3 年速いキャリアパスを進んでおり、専門学校における職業教育の成果を見ることができる。 2年目のインターンシップイベントに参加した学生が通信建設業界に就職し、企業側の先輩社員として後輩のイベント参加学生に説明をする姿が見受けられた。先輩が就職している業界ということで同社は昨年1名採用、今年も選考に2名の学生が手を挙げており、順当にいけば1月下旬～2月上旬に内定となる。 イベントに参加した学生に対して開発系でない IT に関わる仕事(情報通信)に対して興味を持たせることが概ね出来たと思う。参加した1年生のうち2名が通信建設業界へ進みたいという意思表示を示したことは大きな成果と言える。

課題	IT 系専門学校における開発系(プログラマ)教育、ネットワークエンジニア(CCNA)教育の大きな2カテゴリーに加えて、ネットワークインフラエンジニア(通信建設)教育 というものを新たに加える事で若手社員不足を抱える通信建設業界に対する専門学校としての職業教育を学科もしくはコースとして確立する必要がある。
川口工業高等学校	
所感	今回初めて 1 学年での参加となり、前回までに比べると各体験に対する反応は大きかったように感じる。 一方でブースでの会社説明などについてはまだ進路関係の知識も浅いため、現実味が薄く、反応も弱かったように感じた。
成果	専門高校への入学から 8 ヶ月程度の生徒にとって、このタイミングで企業の方から直接指導をいただける機会というのは得難く、生徒の興味関心を広げるという意味で効果が非常に大きいように感じた。
課題	交通事情もあって到着が遅れてしまったため、実施スケジュールについては再考の余地があると思う。単純に今年より出発時間を早めようとするとも 1 年生 80 名を 7 時半ごろに集合させることになってしまう。生徒によっては 1 時間以上かけて登校してくる者もいるため、現実的には難しいと考えている。

福岡インターンシップイベント

全国水平展開の足掛かりとして重要なインターンシップイベントを
麻生情報ビジネス専門学校、中央情報専門学校の協力を得て、
ヒューマンキャンパス福岡校にて開催。

1. 日時： 令和 6 年 12 月 10 日(火) 13:00 ～ 15:00

2. 場所： ヒューマンキャンパス福岡校

3. 出席者： 生徒 22 名

有識者： 高橋、高津(日経 BP)

委員： 大須賀(中央情報専門学校)

運営： 嶽（株式会社 MTM）

笹本（株式会社スペースリンク）

事務局： 川嵯(東京リーガルマインド)

4. 実証講義 実施内容

- ・ VR 動画展示スペース
リモートコンテンツとして展開、VR ゴーグルを高校に配布し VR 動画を体験
- ・ 職業紹介動画
通信建築企業各社作成した動画を、現地 で動画を配信
- ・ 企業様用スペース
参加企業、ディスカッションスペースを用意
- ・ 高専連携ブース
麻生塾、中央情報専門学校の紹介用ブー ス ※募集担当者様が対応
- ・ ユニホーム体験ブース
新旧のユニホームやヘルメットの体験を実施
 - ・ 空調服（熱中症対策商品）
 - ・ 電熱ベスト(防寒対策商品)
 - ・ ヘルメット（最新の軽量化モデル）

5. 実証講義 実施風景



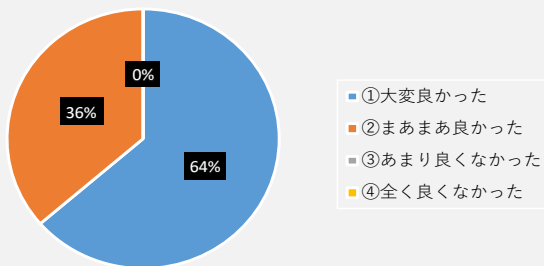
【実証講義 受講アンケート】

アンケート回答者 22名

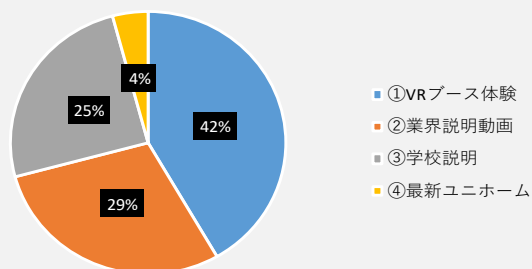
ヒューマンキャンパス高等学校 福岡学習センター

Q1	イベントに参加して良かったですか？			
①大変良かった	②まあまあ良かった	③あまり良くなかった	④全く良くなかった	
14	8	0	0	
Q2	展示で興味があった展示はなんですか？			
①VRブース体験	②業界説明動画	③学校説明	④最新ユニホーム	
10	7	6	1	
Q3	参加時間はどのように感じましたか。			
①長かった	②短かった	③ちょうどよかった		
1	2	19		
Q4	展示数はどのように感じましたか？			
①多かった	②少なかった	③ちょうどよかった		
1	1	20		
Q5	情報通信について興味が持てましたか？			
①意識するようになった	②やや意識するようになった	③あまり意識しない	④意識することはない	
10	11	1		
Q6	今後もこのようなイベントに参加したいですか？			
①ぜひ参加したい	②できれば参加したい	③あまり参加したくない	④参加したくない	
2	18	2		

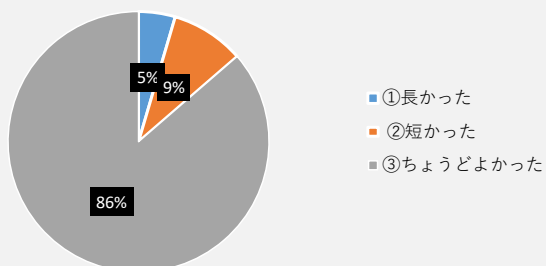
Q1 イベントに参加して良かったですか？



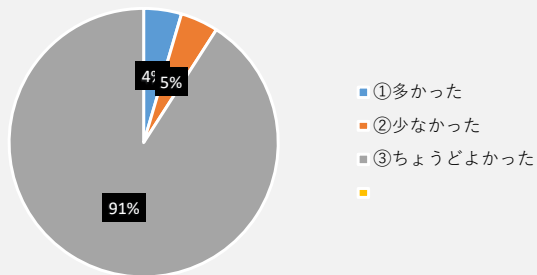
Q2. 展示で興味があった展示はなんですか？

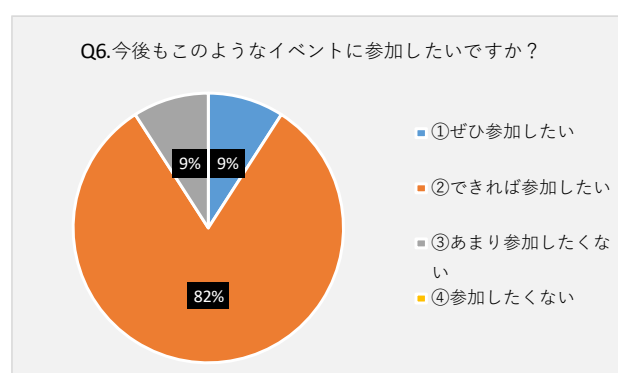
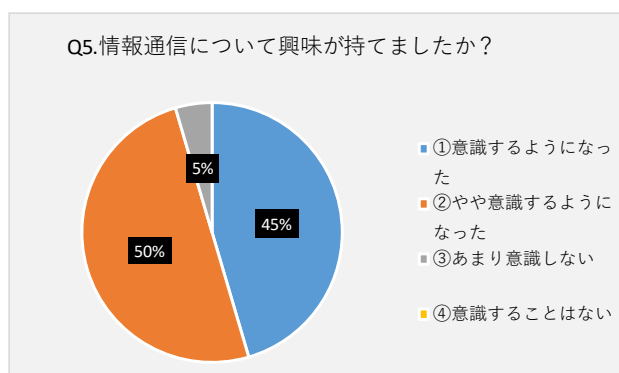


Q3. 参加時間はどのように感じましたか。



Q4. 展示数はどのように感じましたか？





Q7、感想・要望(自由記入欄)

- ・ VR の箱をもらえてうれしかった。
- ・ VR やヘルメットなど、様々な体験ができて楽しかったです。
- ・ VR の体験ができて楽しかったです！
- ・ 知らなくても、サポートが充実してることを知って安心だと思った。
- ・ 自分が知らない業界を少しでも知れてうれしかったです。
- ・ IT 業界は全ての職業に関係するという事が知れてよかった。
- ・ IT に興味を持つことができた。
- ・ IT 関係のお仕事は仕事場に通うイメージがあったのでテレワークもできるということを聞き、もう一度考え直してみようと思いました。

Q8、将来の希望、進路の悩み等(自由記入欄)

- ・ やりたいことがありすぎてお話をきとたびずっと迷ってしまう。
- ・ 事務系の仕事を検討中です。
- ・ パン屋就職
- ・ まだ未定なので、いろいろな分野を調べてみたい。
- ・

第3節 事業実施に伴うアウトプット(成果物)

第 1 項 年度別(令和 3～8 年度)アウトプット一覧

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
実態調査報告書	●企業へのアンケートによる調査 ●学生を対象とした職業紹介イベントによる意識調査	●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング	●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング
教材開発 (講義・演習)		●高校1年次(入門プログラム) ●専門学校1年次(e ラーニング) ●工業高校 3 年次(NW 科目)	●高校2年次 ●専門学校1年次 ●工業高校 3 年次(NW 科目)
実証講座		●実証講座 R4年度実施報告	●実証講座 R5年度実施報告 (NW 科目)
職業紹介 イベント	●職業紹介イベント実施報告	●職業紹介イベント実施報告	●職業紹介イベント実施報告
事業報告・広報	●事業報告書 ●事業 PR 動画	●事業報告書 ●事業 PR 動画	●事業報告書 ●事業 PR 動画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
実態調査報告書	●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング	●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング	
教材開発 (講義・演習)	●高校3年次科目(前半) ●専門学校2年次科目(前半)	●高校3年次科目(後半) ●専門学校2年次科目(後半)	●高一専連携プログラム教材最終版
実証講座	●実証講座 R6年度実施報告	●実証講座 R7年度実施報告	●実証講座 R8年度実施報告
職業紹介 イベント	●職業紹介イベント実施報告	●職業紹介イベント実施報告	●職業紹介イベント実施報告
事業報告・広報	●事業報告書 ●事業 PR 動画	●事業報告書 ●事業 PR 動画	●事業報告書 ●事業 PR 動画

第 2 項 令和6年度アウトプット<教材開発/実証講座>

●開発教材「情報科目における入門プログラム(コミュニケーション&デザイン編)」

学習想定時間: @50 分×4コマ

対象: 高校 1 年次(情報系、工業系高校以外)または工業高校体験入学時用

教材: ☒講義用教材(表示スライド 210P)/☒課題

●実証講座「情報科目における 入門プログラム (コミュニケーション&デザイン編)」

実施期間: R6 年12月17日(2 コマ)／R7 年 1 月 23 日(2 コマ)

実証講座の対象者: ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター(通信制高校) 希望者

受講者数: 延べ44人

実施期間: R6 年12月13日(2 コマ)／R7 年 1 月15日(2 コマ)

実証講座の対象者: 学校法人山口松陰学園松蔭高等学校みなとみらい学習センター(通信制高校)

受講者数: 延べ40 人

●開発教材「通信エンジニアリング入門(実技編)」

授業想定時間: @50 分×10 コマ授業用

対象: 専門学校 2 年生

教材: ☒講義用教材(上記スライド)//☒課題課題(10 回分)

●開発教材「通信エンジニアリング入門(実技編)」確認テスト問題の作成と実施

対象: 専門学校 2 年生

試験形態: ペーパー式に加えて CBT 受験も可能とする

予定人数: 60 名

●実証講座「通信エンジニアリング入門(実技編)」

学習想定時間: @50 分(スライド 10 枚)×36 コマ

対象: 専門学校 2 年生

予定人数: 60 名

●実証講座「キャリア教育科目」オンラインライブ実施

学習想定時間: @50 分(スライド 10 枚)×36 コマ

対象: 通信制高校生徒(ヒューマンキャンパス高校全校、松陰高校全校向け)

教材: ☒講義用教材(上記スライド)

●実証講座「キャリア教育科目」対面実施

学習想定時間: @50 分(スライド 10 枚)×36 コマ

対象: 工業高校生徒(川口工業高校、大宮工業高校 2 年生向け)

教材: ☒講義用教材(上記スライド)

●実証講座(R5 開発)「情報科目における入門プログラム(ゲーム編)教員指導用(福岡版)」

学習想定時間:@50 分×4コマ

対象:福岡県にて高校 1 年次(情報系、工業系高校以外)または工業高校体験入学時用

教材:☒講義用教材(表示スライド 210P)/☒課題

●開発教材「ネットワーク構築・運用講座Ⅱ」

学習想定時間:@50 分×6コマ

対象:三郷工業技術工業高校2年次

受講者数:延べ 20 人

●実証講座「Cisco パケットトレーサーによるネットワーク構築」

実施期間:

<第1グループ>

R6 年9月10日(3 コマ)／R6年 9月17日(3 コマ)／R6年 9月24日(3 コマ)

実証講座の対象者:三郷工業技術工業高校

受講者数:延べ20人

<第2グループ>

R6 年10月12日(3 コマ)／R6年11月5日(3 コマ)／R6年 11月12日(3 コマ)

実証講座の対象者:三郷工業技術工業高校

受講者数:延べ24人

業界への就職人数など事業終了後の目指すべき指標を、次項目に記載する。

第3項 事業実施によって達成する成果及び測定指標

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
業界企業への就職人数	目標値	人		10	15	50
	実績値	人		7	27	—
	達成度	%		70	180	—
(上記 KPI の測定手法) 高校・専門学校・業界への聞き取り調査						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
意識調査アンケート回答高校数	目標値	校		45	45	50
	実績値	校		25	39	—
	達成度	%		56	80	—
(上記 KPI の測定手法) QR コードを利用した WEB アンケートの集計による						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
意識調査アンケート回答高校生数	目標値	人		2200	2200	2500
	実績値	人		1270	1475	—
	達成度	%		57.7	67	—
(上記 KPI の測定手法) QR コードを利用した WEB アンケートの集計による						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
イベント参加学生数	目標値	人		150	150	200
	実績値	人		105	176	—
	達成度	%		70	117	—
(上記 KPI の測定手法) オンライン参加人数は画面でカウント。会場参加人数は当日集計。						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
実証授業体験人数	目標値	人		300	300	300
	実績値	人		74	91	—
	達成度	%		25	30	—
(上記 KPI の測定手法) 学校にて参加人数をカウント。						

KPI(成果測定指標)		単位	事業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
Ⅱ 情報科目における 入門プログラム（ネットワーク編）アンケート評価 満足度 5段階評価で4以上 (上記 KPI の測定手法)実証講座参加者アンケートの実施	目標値	%		90	95	95
	実績値	%		82	100	—
	達成度	%		91	105	—
KPI(成果測定指標)		単位	事業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク授業 アンケート評価 満足度 5段階評価で4以上 (上記 KPI の測定手法)実証講座参加者アンケートの実施	目標値	%		90	95	95
	実績値	%		90	100	—
	達成度	%		100	105	—
KPI(成果測定指標)		単位	事業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
高校生意識調査アンケート回答において、通信インフラの仕事への理解度・興味 5段階で 4 以上 (上記 KPI の測定手法)QR コードを利用した WEB アンケートの集計による	目標値	%		65	90	95
	実績値	%		76	100	—
	達成度	%		117	111	—
KPI(成果測定指標)		単位	事業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
意識調査アンケート回答専門学校数 (上記 KPI の測定手法)QR コードを利用した WEB アンケートの集計による	目標値	校		—	30	30
	実績値	校		—	11	—
	達成度	%		—	30	—
KPI(成果測定指標)		単位	事業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
意識調査アンケート回答専門学校生数 (上記 KPI の測定手法)QR コードを利用した WEB アンケートの集計による	目標値	人		—	600	600
	実績値	人		—	188	—
	達成度	%		—	30	—

第3章 最終年度までの具体的な取組

第1節 計画の全体像

◆【令和3年度(初年度 ただし2か月間)】

事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の組織化と開催
実態調査の実施
実態調査(1)の企画・設計・実施・分析
実態調査(2)の企画・設計・実施・分析
ジョブフェア(体験学習会)の開催
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R3 年度版の策定
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和4年度(2年目)】

事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催
専門家・有識者へのヒアリング
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R4 年度版の策定
指導ガイドライン R4 年度版の策定
eラーニング教材(通信建設エンジニアリング入門講座)
・開発
・電気通信工事人材養成事業の HP での公開
実証講義用教材/演習用教材
・情報科目における入門プログラム (ゲーム編)開発、実証講義実施
・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材開発
業界体験型イベント(体験学習会)の開催
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和5年度 (3年目)】

事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催
専門家・有識者へのヒアリング
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R5 年度版の策定
指導ガイドライン R5 年度版の策定

eラーニング教材(通信建設エンジニアリング入門講座)改定改良

実証講義用教材/演習用教材

- ・専門学校留学生向け 通信建設エンジニアリング入門講座開発
実証講座実験
- ・情報科目における入門プログラム(ネットワーク編)
改定改良、講師用教材の開発、実証講義実施校の拡大
- ・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク授業用教材
改定改良、実証講義実施
- ・高専連携カリキュラムを見据えたキャリア教育科目の教材開発
業界体験型イベント(体験学習会)の開催
- ・オンラインコンテンツの充実

事業成果のとりまとめ

事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和6年度(4年目)】

事業推進体制の整備と活動推進

実施委員会および部会の開催

専門家・有識者へのヒアリング

本事業全国水平展開として「福岡モデル」の構築、運用

教育プログラムの開発

カリキュラム・シラバス R6 年度版の策定

指導ガイドライン R6 年度版の策定

eラーニング教材(通信建設エンジニアリング入門講座)改良

実証講義用教材/演習用教材

- ・専門学校留学生向け 通信建設エンジニアリング入門講座(実技編)開発
実証講座実験
- ・情報科目における 入門プログラム(コミュニケーションと情報デザイン編)
生徒用、講師用それぞれの開発、実証授業の実施、
実証講義実施校の拡大(福岡県での水平展開)
- ・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材
改定改良、講師用教材の開発、実証講義実施校の拡大
実証講義実施校水平展開(福岡県での水平展開)

高等学校におけるキャリア教育の推進

新規教材の開発検討

業界体験型イベント(体験学習会)の開催

内容見直し、オンラインコンテンツの充実、福岡モデルでの展開

事業成果のとりまとめ

事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和7年度(5年目)】

事業推進体制の整備と活動推進

実施委員会および部会の開催

専門家・有識者へのヒアリング

教育プログラムの開発

カリキュラム・シラバス R7 年度版の策定

指導ガイドライン R7 年度版の策定

eラーニング教材(通信建設エンジニアリング入門講座)改良

実証講義用教材/演習用教材

- ・情報科目における 入門プログラム (IT による問題解決編)

- 生徒用、講師用それぞれの改定改良、

- 実証講義実施校の拡大

- ・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク授業用教材

- 生徒用、講師用それぞれの改定改良

- 実証講義実施校の拡大

新規教材の開発検討

第 37 回埼玉県産業教育フェアへの参画

通建求人情報検索システムの開発

業界体験型イベント(体験学習会)の開催

- 内容見直し、・オンラインコンテンツの充実

事業成果のとりまとめ

事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和8年度（6年目）】

事業推進体制の整備と活動推進

実施委員会および部会の開催

専門家・有識者へのヒアリング

教育プログラムの開発

カリキュラム・シラバス最終版の策定

指導ガイドライン最終版の策定

eラーニング教材(通信建設エンジニアリング入門講座)最終版

実証講義用教材/演習用教材(最終版)

- ・情報科目における 入門プログラム (ゲーム編)

- 生徒用、講師用それぞれの改定改良、

- 実証講義実施校の拡大

- ・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材

- 生徒用、講師用それぞれの改定改良

- 実証講義実施校の拡大

業界体験型イベント(体験学習会)の開催

- 内容見直し、・オンラインコンテンツの充実

第 38 回埼玉県産業教育フェアへの参画

事業成果のとりまとめ

事業成果報告書の作成、事業成果の公開

第2節 本事業終了後の成果の活用方針・手法

本事業の要は、高校→専門学校→電気通信工事業界の一気通貫型の人材プラットフォームの構築と運営にある。

産学連携コンソーシアムにより企画する職業紹介・体験イベント(ジョブフェア)は WEB サイト配信も行い、全国対応型として毎年開催する。さらに、コーディネーターと協力企業が中心となり、企業が求める習熟レベルに合わせた資格化を検討する。教育プログラムの告知や普及、学習内容のブラッシュアップを資格運営として実施していく予定である。

令和9年度は、コーディネーター、協力企業との協同による認定団体を設立し、以下の業務を行う。

- 試験問題の作成→CBT 試験化
- 合格者の資格認定
- 登録者の管理
- 資格および教育プログラムの企業、教育機関への告知・宣伝
- ジョブフェアの企画運用

令和10年度、11年度以降は、資格事業として普及活動を実施して行く。

ジョブフェアは毎年開催とし、職業紹介と人材マッチングの場を拡大して行く。参画企業の拡大が即ち本事業成果の全国普及につながると期待される。

なお、制作する教育プログラムの内容は電気通信工事業に特化させるものであり、他分野への提供は考えにくい。構築するコンソーシアムとジョブフェアによる人材マッチングの手法は、これを拡大することで、他の職業分野にも十分に応用できるものとする。

令和 6 年度

「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社東京リーガルマインドが実施した令和 6 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。